明治四十三年八月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百四十九號

私立大日本婦人衛生會

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第二百四拾九號目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

會　告

●會費未納の御方は會計整理の困難を察せられ本年十二月迄の前金相添へ此際本會事務所へ宛御送金被下度候

●前金切れの御方は此際御送金被下度候也

本會の振替貯金口座番號一〇六〇〇番に付右番號を御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名（卽ち本會）等を記入し同時に金圓御拂込相成候はゞ直ちに本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候、右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被下度此段會員諸姉に稟告致候也

○七月發行の本誌には會員諸姉の御便宜を謀り特に振替貯金拂込用紙を添付致置候間御用ゐ被下度候

○爲替御送附の節は本會事務所宛にて麴町區富士見町郵便局へ御振出しを乞ふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衞生會 山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公選し幹事評議員は會長之を選任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條　本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の選擧庶務會計の報告をなす●第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條　本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條　服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衞生會 宇都宮支會規則

第一條　本支會ハ私立大日本婦人衞生會宇都宮支會ト稱ス●第二條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公選シ評議員幹事ハ會長之ヲ選任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條　毎月一回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改選庶務會計ノ報告ヲナス●第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスル時ニハ其旨事務所ニ届出ヅベシ●第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條　本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條　服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條　特ニ支會規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

宇都宮支會

私立大日本婦人衞生會 新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衞生會に屬し婦人衞生の研究を目的とし兼ねて一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衞生雜誌を配布す●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衞生慈善資金とす●第六條　支會には會長一名副會長一名　評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衞生及び慈善に關する演説をなすべし●第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす●第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を著用すべし●第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衞生會の規則を準用す

明治二十九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しけ子方

新潟支會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〱衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつばら學ぶべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を怠かざるもの、如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨を本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託するとあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故あろ時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る　幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め遊會を開くことあるべし●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして注意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　[illegible]規則の改正其他重要の件を議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て[illegible]幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し[illegible]月總會に報告すべし

支會●第廿五條　本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし[illegible]きは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會[illegible]本會に納付することを止め支會[illegible]其會員を置くこと[illegible]就きても支會よ[illegible]●第卅一[illegible]會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は[illegible]會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
總裁 周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 羽田三緒子
同 岡田德子
同 高木緣子
同 山本多禮子
同 松平芳子
同 三浦數子
評議員 石川貞子
同 岩下ゆか子
同 濱田捨子
同 長谷川仲子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 西升子
同 土肥多鶴子
同 緒方悅子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山龜子
同 吉武輝枝子
同 丹波貞子
同 高橋孝子

評議員 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 中濱芳子
同 山口貞子
同 子爵夫人 松井正子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮本樂子
同 宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別賛成員（いろは順）

醫學博士 入澤達吉君
理學博士 石川千代松君
醫學士 石原久君
醫學士 石原喜久太郎君
理學博士 飯島魁君
ドクトル 飯盛挺造君
醫學博士 伊藤隼三君
ドクトル 伊澤信平君
醫學博士 伊東祐彦君
色川圀士君
岩井禎三君
藥學博士 石津利作君
醫學士 磐瀬雄一君
長谷川泰君
法學博士 鳩山和夫君
萩原彌四郎君
醫學博士 林春雄君
原俶昭君
醫學士 橋本左武郎君
醫學博士 濱田玄達君
男爵 濱尾新君

醫學博士 芳賀榮二郎君
西田敬止君
ドクトル 西山信光君
本田增次郎君
醫學士 鳥居春洋君
醫學博士 土肥慶藏君
醫學博士 遠山椿吉君
醫學博士 大澤謙二君
醫學士 大野豐太君
醫學士 大西秀治君
子爵 小笠原長生君
ドクトル 小此木信六郎君
醫學博士 岡田榮吉君
醫學博士 岡田和一郎君
恩田重信君
醫學博士 緒方正規君
醫學博士 大澤岳太郎君
醫學士 渡邊房吉君
醫學博士 加藤照麿君
法學博士文學博士男爵 加藤弘之君
醫學士 河野衛君
醫學博士 河本重次郎君
醫學博士 金杉英五郎君
醫學博士 片山國嘉君
醫學士 賀古鶴所君
醫學士 樫田龜一郎君
醫學士 唐澤光德君
醫學士 甲野棨君
醫學士 米山彦郎君
横井忠圖君
醫學博士 高橋順太郎君
男爵 高崎正風君
高嶺秀夫君
醫學士 高田畊安君
ドクトル 高山紀齋君
藥學博士 田原眞純君
醫學博士 田代義德君
醫學士 田村光顯君
醫學士 田村化三郎君

醫學士 竹中成憲君
藥學博士 丹波敬三君
法學博士 高木豐三君
醫博、男爵 高木兼寛君
理學博士 坪井正五郎君
醫學博士 土田卯三郎君
男爵 辻新次君
醫學博士 中濱東一郎君
醫學博士 長與稱吉君
藥學博士理學博士 長井長義君
男爵 南部實男君
醫學博士 能勢靜太君
醫學博士 久保猪之吉君
醫學博士 栗本東明君
醫學士 栗本庸勝君
醫學博士 隈川宗雄君
醫學博士 吳秀三君
醫學博士 山田鐵藏君
醫學士 山田弘倫君
醫學士 山根正次君
ドクトル 山上兼輔君
ドクトル 松山陽太郎君
丸山長四郎君
ドクトル 富士川游君
布施正顯君
男爵 後藤新平君
醫學士 古川榮君
小高眞造君
小西信八君
醫學士 寺田織尾君
醫學士 寺田豐作君
寺田勇吉君
醫學博士 朝倉文三君
子爵 秋元興朝君
足立寛君
ドクトル 朝山義六君
醫學士 淺田決君
醫學博士 佐藤達次郎君
醫學博士 佐々木政吉君
醫學博士 榊順二郎君

醫學博士 榊保三郎君
醫學博士 櫻井恒次郎君
醫學博士 佐藤三吉君
齋藤濟文君
醫學士 笹川三男三君
醫學士 櫻井郁二郎君
ドクトル 佐藤運雄君
醫學士 佐藤德齋君
醫學士 澤崎寛制君
ドクトル 佐伯理一郎君
醫學博士 木下正中君
醫學博士 桐淵鏡次君
醫學博士 木村德衛君
醫學博士 北島多一君
醫學博士 北里柴三郎君
醫學士 北村精造君
醫學博士 北川乙治郎君
ドクトル 菊池循一君
醫學博士 三輪信太郎君
醫學博士 宮本叔君
宮本仲君
宮川保全君
理學博士 箕作佳吉君
水原漸君
醫學博士 三宅秀君
醫學博士 三浦謹之助君
醫學博士 三島通良君
醫學博士 三浦守治君
島田三郎君
ドクトル 志村誠麿君
醫學博士 島村俊一君
ドクトル 日高昂君
醫學博士 弘田長君
伯爵 土方久元君
醫學士 百瀬玄溪君
醫學士 森田正馬君
文學博士醫學博士 森林太郎君
醫學士 澄川鑑君
ドクトル 須田卓爾君

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第二百四十九號
（明治四十三年八月二十日發行）

講演

血の話（承前）

醫學博士　二木謙三

それから血球の效用はどうである、其樣に澤山あつて一體何う云ふ役をして居るのであるかと云ふと、是は又人間の生命を保つて行く働きをして居るので之を一つ一つ分けて申しますと、赤血球の最も重要なる働きは空中の酸素を取つて來ては人間の身體に送り、人體の中の勞廢物を外に追ひやる働を爲す。何う云ふ工合に其働きをするかと云ふと、此赤血球の中には化學上鐵分を含んで居る。それは赤血球一貫目の中に僅に四匁五分しか含んで居らぬ、所が此僅かな鐵が非常の働きをするのであります。其の働きに關しては、學者が土地に就て苦心をして研究したのであつて、土地の中にも同じく少量の鐵を含んで居つて、それが血液の中の鐵と同じ働きをするやうである。さうして地球の表面に存在して居る鐵はどう云ふ形にあるかと云ふと亞酸化鐵の形にある。此亞酸化鐵は炭酸瓦斯を吸收する力がある、吾々が燭火を燈したり火を焚いたりすると出來る炭酸瓦斯之を吸込むと變化して炭酸亞酸化鐵となる、是が酸素に逢ふと炭酸を放して酸化鐵に變る、それが又或物に觸れると、其物に酸素を與へて、自己は又もとの亞酸化鐵になつて仕舞ふ。此働きを朝から晩まで其鐵がやつて居る、其の御陰にて地中の動植物は生活して居ることが出來る。人間の血球中の鐵も其通りの働きをして居るので、肺の所へ來ては、酸素を取り、身體へ行つては酸素を與へて、身體から炭酸を取つて行き、又肺へ來て炭酸を放して、酸素を運

んで行つては組織に與へ、一晝夜に四千遍も繰返して働いて居る、丁度百姓のやうに、綺麗なお米を拵へて來ては、不潔な汚穢を運んで居る、之に依て人間は生きて居るのです。けれども血球に向つて感謝をして與れる人もありませぬし、血球に勳章をやつた人もないやうです、併し褒められなくても血球は朝から晩まで働いて居る。人間の爲に鐵が大切な如く百姓は實に國家の爲に大切なものである、斯う云ふ人、斯う云ふ血球がなかつたならば、吾々の身體や國家は保たぬのであります。茲に於て吾々は血球と百姓の有難さを考へなければならぬのであります。是は　皇后陛下の御製と覺えて居りますが

　白露の起き臥しことに思ふかな
　　民の草葉のさか行かむ世を

と仰せられてある、吾々も唯朝から晩まで虚榮心に驅られて、高位高官を望むと云ふのは間違ひであります、何うかして國家の柱石とならうと云ふには、常に心を此邊に用ひて居らなければならぬと思ひます。此血球は斯く柔かい優しい水のやうなものであるけれども其働きは非常なものである。矢張り御製の御歌に

　器には從ひながら巖をも
　　通すは水の力なりけり

とあります、誠に畏いことゝ思つて居ります。それから此效能ある血液が如何に身體に分配せらるゝかと云ふと、前にお話した通り、手でも足でも體內到る處に分配されて居る、其證據には吾々が體中何處を突いても血が出て來る、殆ど人間の身體は血で包まれて居るのであります。夏の初めにはよく雷がある、さうして其雷が落ちた場合には、翌日の新聞を見ると必ず一人や二人は人が死んで居る、併し皮膚を針で突いた場合では、何所を刺しても一遍に五百萬程の血球の生き死がある。血液は斯の如く身體中に分配されて居るのであつて、それが能く分配されて居る時には、滿堂の皆さんのやうに血色も良く、生き〳〵して居りますが、若し惡く分配されると貧血

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をして、顔が蒼ざめ手足が冷えるのであります。併し能く分配されても惡く分配されても、多くの場合は血液の量に變りはない事が多いので、唯多くの場合には或所にばかり餘計に行つて、他の所には少し行くと云ふ工合に、分配が不公平になるのであるから、斯う云ふ人は、常に血の分配を能くすることを考へなければならぬ、是は後で血液の衛生の所へ行つて、模型をお目にかけて委しくお話しやうと思ひます。

それから血液は此通り人間を保護して吳れるが、又宇宙間には人體を害すべく働いて來る物も澤山ある、それは何であるかと云ふと、即ちチフスとか結核とか云ふ病毒性の黴菌であります。此黴菌は、隨分澤山な量が世界に存在して居つて、是が人間の隙を狙つて、害しやう〳〵と努めて居る。此黴菌の殖える數は又血球の數よりもまだ〳〵多いのでありまして、其殖えかたは、一個が二個になり、二個が四個と云ふやうに分れて行く、其分れる數や時間は何れ位かと云ふと、チフス菌の如きは一回の分裂に二十分かゝる、詰り二十分で一個が二個となるのであるから、一時間に三遍しか分れぬのであります。併し是が一晝夜になると非常な數になる、即ち一時間に三回分れゝば、一晝夜には七十二回分ることになる。之を式で現せば1×2^{72}と云ふことになります、之を計算すれば非常に多くの數になりまして、即ち二百二十八に零が十九付くのですから、之を讀めば二十二萬八千刧になるのです。二十兆の赤血球の數でさへ頭に浮ばぬ位ですから、此樣な多くの數は迚も想像が出來るものでありません、詰り黴菌が一晝夜に殖える數は、人一人の體の血球の數のそれが一晝夜であるから、二晝夜三晝夜となつたら非常なものであらうと思ひます。此黴菌の爲に人間は病氣に罹るのでありますが、之に打勝つ所の力は此血液にあるのです、是が血清の效用であります。今は唯血清とばかりお話し致しますが、血漿でも同じ働を有つて居るのです。血清と云ふものは大切なもので

ありまして、是の十滴は、例へばチフス菌の十億以上を殺す力を有つて居りますから、中々心强いものであります。これは健康者の血清でありますが、兎に角血清は此位の殺菌力を有つて居る、若し吾々が窒扶斯なり赤痢なりに罹りますれば、取りも直さず血液が黴菌に負けたのであつて、癒つて參りますと血液が黴菌に打勝つた譯であります。それで癒つた人の血清は、健康者の血清よりは一層强い殺菌力を有つて居ります。之を吾々が試驗するのに、人間では試驗は出來ませぬから、動物へ僅かな黴菌を注射して見る、澤山注射すると、其動物は死ぬから、僅かな量を注射する、さうすると、其動物は少し病氣に罹つて癒る、それへ又前より少し多く注射すると又癒る、癒つて來ると又前より少し多く注射すると云ふ風にすると、遂には比較的多量を注射してもそれに打勝つ力が出て來る、即ち病氣にかゝらない樣になる、之を免疫性と名付けるのであります。吾々が能く實扶的里亞患者には、血清をさゝなくちやあならぬと云ふが、それは此免疫になつた動物の血清を取つて注射するのであります。先づ馬に實扶的里亞の黴菌の毒を幾度も注射して行つて、其馬に强い免疫性を保たして、其血清を患者にさすと其病氣が癒るのです。是は大變動物を虐待するやうに思はれますが、動物は人間の爲に出來て居るものでありますから、人間の體を癒せば動物は滿足して死んで行くだらうと思ひます。此免疫性には、黴菌に對する免疫性と、毒素に對する免疫性との二つがあります。黴菌に對する免疫性は、今お話した通りでありますが、黴菌のみならず、又動物に毒蛇の樣なものゝ毒を幾回も注射して、其の動物を蛇毒に對して免疫となすときは、其の動物の血清は其の毒蛇に咬まれた人をなほすことが出來るのでありまして、我々は是を毒素に對する免疫性と名づけます。其他總て動物の身體と云ふものは、何でも自分の體の成分より外の物が體に入つて來ると、それを皆な打壞さうと云ふ力を有つて居る。人間に限らず、兎へ馬の血清を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さすとか、或は兎へ牛の血清をさしたりすると、兎の體から言へば、馬の血清、牛の血清は邪魔物でありますので、兎の體から其障碍に打勝つ所の物質が出て來る、之を吾々は兎を馬や牛の血清を以て免疫にしたと稱へるのであります。此の樣な免疫性を利用して、吾々が色々の實驗上有益なことを爲し得るのであります、例へば或犯罪人がありて、人を殺したと云ふ嫌疑が掛つて居る、是はもと〳〵牛殺しでありますから、昨日も牛を屠つたので、其血が衣類に附いて居るのでありまして、決して人を殺したのではございませぬと言ふと、檢事さん中々承知しない、其所で血の痕が、牛の血であるか人間の血であるかと云ふ鑑別をしなければならぬ。是血は若しや生々して居る間なら、顯微鏡で見ると、血球の形や大きさによつて、或る程度迄分るけれども、血が乾いて仕舞ふと分らない、況して一ケ月も一年も經つて居る場合には分り樣はない。それには矢張り動物の免疫性を用ゆると分るのであります。其方法は先づ甲の兎をば人間の血液で以て免疫し、乙の兎をば牛の血液で免疫し、丙の兎は馬の血で免疫して置く、さうして疑はしい衣類の血痕を鋏でスッカリ切取つて、それを僅かな水で能く洗ふ、丁度小野小町が歌の本を洗つたと云ふことを聞いて居りますが、其樣に丁寧に血痕を洗ひ落すのです。それから今の免疫して置いた所の甲乙丙の兎の血清を取つて來て今洗つた所の液を之に加へて見ると妙な現象が出て來る。若し其の血痕が人間の血であれば、それを甲の中へ入れると、其血清が暫時にして濁つて來て、後には沈澱する、すると、是は人間を殺したと云ふことになる。又若し牛の血液で免疫した乙の兎血清に加へて沈澱が起つた時には、血痕は牛の血であつたと云ふので、無罪になるのであります。丁度私が例を持つて參りましたから、卽座にやつてお目に掛けます。此處に澤山色々な血で免疫した所の血清がありますから、是へ疑はしい所の液を一つ加へてお目にかけませう(實驗)。これ此の通り種々の免疫血

清を別々の管に入れ置きて、之に疑はしき血痕を洗つた液を各管に一滴づゝ加へましたら、第二の管にのみ此の通り沈澱が起りまして第一第三等は此の通り透明になつて居りますから、丁度此の血痕は人間の血でも馬の血でもなくして、牛の血であつたと云ふことが分る、即ち此の未決囚人は無罪放免になるのであります。此の方法は其の外馬肉の鑵詰を牛肉だと僞はりたる場合等の鑑定にも應用することが出來るのである。

其次には凝集反應と申すことが御座います。是はどう云ふ事であるかと云ふと、矢張り免疫作用に異ならぬので、例へば此患者は窒扶斯であるかないか診斷をして呉れと言つてなど來ると此作用を應用するので、それは先づ窒扶斯の黴菌を以て動物を免疫して行くのです、さうすると此の動物の血清は、之を窒扶斯菌に加へると、菌の運動力がなくなり互々にクッツキ合ふて、遂に塊團状に凝集せしむる働を有つて來るのです、是を凝集反應と名づけるのであります。此の作用は、只動物の血清にのみ現はるゝものでなく、窒扶斯に罹れる患者の血清にも現はるゝものでありますから、疑はしき患者あるときは、其の患者の血清又は腕に發泡を張りて出來た發泡の水を取りて、之を窒扶斯菌に加へて見る、若し此の菌が凝集を呈する時は、其の患者は窒扶斯である、然らざる時は窒扶斯でないと診斷するのであります。

今茲に疑はしき患者の血清があります、之に腸窒扶斯の黴菌と、腸窒扶斯に似寄つて、併も異なつて居る所の近來發見せられたパラチフスと云ふ病氣の黴菌とを別々に入れて見る(實驗)、所がパラチフスの方が平等に溷濁して、凝集が起らぬのに、腸窒扶斯の方は上部は透明で、底の所に綿のやうな工合に菌が凝集して來て居ること御覧の通りでありますから、即ち此の患者は腸窒扶斯の患者であるから、御宅に置いては危險だから隔離をなさらなければならぬと言つてやる、是も免疫の力を藉りて、吾々が判斷するのです。

(以下次號)

叢談

婦人の愛嬌

人はかたちありさまの勝れたらんこそあらまほしかるべけれ、ものうちいひたる聞きにくからず、愛敬ありて詞多からぬこそ、飽かずむかはまほしけれ。（徒然草）

抑も愛嬌とは如何なるものを云ふかと申しますればつまり立派な身體の中に、美しい精神を宿して居つて、それが眞に女らしい感情に依つて、程よく外に表はされた證跡でありまして、一種人を引付ける力のあるものであります。これは健全と云ふことゝ、如何にも女らしいと云ふことゝ二つの要素が調和して初めて起る所の力であります。而してこの愛嬌は實に婦人の幸福を永久に保證する所の德であります。

斯く愛嬌は婦人に於て大切なる德でありますが、これは練習し修養しなければ善美の域に達することは出來ない。素より天性愛嬌のある人もありませうが敎育を經、修養を積んで、殆ど天性となつた所の愛嬌でなければ、決して尊ぶべき美德たる完全な愛嬌ではありません。俗に所謂彼の子は愛嬌があるとか愛嬌者だとか云ふ所のその愛嬌は、多少可愛らしい所があるとか、或は寧ろ滑稽であると云ふ位のことであつて、大人君子の好仇として親愛せられ、極惡非道の惡漢も畏敬してこれに悦服すると云ふ、我が所謂愛嬌とは、品を同うして談ることは出來ないのであります。

ウエーヌスと云ふ女神は、美と愛を司る卽ち愛敬の神としてありますが、後にはこれに二通のウエーヌスがあるやうになりました、乃ち一方は地の娘で、浮世の輕薄な事を司ると云ふので、つまり肉情の愛を表はしたもので、藝者とか遊女とか云ふものゝ祭るべき愛嬌神でありますが、他のウエーヌスは眞正

の美と愛の神で、天の娘としてあります、而して凡て貞操、純潔、神聖の思想行爲を司りまして、淑女の祭るべき愛嬌の神であります、今私の申します愛嬌は、この第二のものであります。

偖てこの愛嬌と申しますものは、已に申しました通り立派な身體と美しい精神とが調和して、美妙なる婦人特有の感情に由て身體の上に表はさるゝのでありますから、これを論じますには、第一に美しき身體の構造を述べ、第二に美しき精神の狀態を說き、次にその密接なる相互の關係を論じて愛嬌の起る所以を示さなければならぬのですが、玆には直ちに相互の關係を述ぶることゝ致します。

先づ愛嬌の分析に取掛りますと、我々日本人や歐洲人に於きましては、衣服を纏ふて居りますから、身體全體を觀察することは六ケ敷い、卽ち露れて居る部分と隱れて居る部分とがありまして、顏面と手だけが露れて居るが、その他の部分は總て包まれて居る。然しその境界は判然定めのある譯ではありません、頭は頸に依て軀幹に移り、手は腕に依て軀幹に附けられて居りますが、これがその時々の風俗や作法に依て多く露はされたり、少し露はされたり致します。而してこの境になつて居る部分も頗る大切な所でありまして、頭や手は軀幹に移行するには是非とも此處に據らなければならぬので諸種の運動があります。一體この露はれて居る部分が、特に愛嬌運動に關係して居ると云ふことは、一つは此の部分が一番自由に躾けることが出來ると云ふこともその原因であります。それでありますから、背中や足でも矢張愛敬運動の一素因とならぬことはありません。

シンガーレーやマレー婦人の背筋は立派な一種の運動をし、我國の婦人の踊に於ては、趾も僅かに美妙なる運動を表して居ります。歐米人や支那人には全く斯ういふことはない、狹い小さな靴を無理に穿いて見たり、コルセットのやうなもので胸を絞る位が關の山である。勿論立派な躾たしなみをするよりも隱じ込んで了ふ方は頗る容易なことで、躾の惡るい見

は押込めて置いて、善く教育した子は自慢して人前に出すと云ふ譯であります。

斯様な風でありますから、衣服で包まれて居る部分は、例へ美術的に出來て居つても殆ど愛敬と云ふことには關係致しませんから、從てその方の衞生、訓錬も等閑にされ、衣服に依て反て害されて居る所もあるのであります。

婦人は衣服で以て愛敬の補をつけることに苦心致します、即ち巴里新流行形の洋服とか、そうでなければ、古い元祿模様と云ふやうな風に、これで以てその身體の無教育の部分、即ち躾のない所を掩蔽して愛敬を補ふ次第でありますが、これはどうかすると反つて惡い判斷を下されることになります。總じて外飾と云ふものは、自然の美に大缺典があるので、人工的に拵へるのであると云ふ批評を下される。倘ほ裝飾品に於ては、それを著飾つて居る婦人の高尚な趣味が表現されて居ると云ふよりも、寧ろ細工人の意匠が反映して居るといふやうなことになります。

もと〳〵衣服といふものは健康上に於ては、風雨寒暑の害を防ぎ得れば足りるので、又審美的には趣味ある衣服なれば、その人品を高め、無趣味のものであればこれを著て居る人の品を下げるのであります。どちらかと云へば衣服は愛敬を表はすよりも、これを妨ける方の傾が多いものであります。

偖て人間の精神の美と云ふものは、如何にして外に表はれるのかといひますと、その心の働が絶えず筋肉の運動に翻譯されて表はれるのであります、乃ち精神の生活が肉身の生活に反映するのであります。顏が赤くなつたり、蒼くなつたりすることや、又目指、胸、口付、身振に伴ふ頭の具合、手振、身體付軀幹と四肢の位置、歩行付、話振、所作、手業、總て此等のことは、精神を寫し、精神が支配する所の筋肉作用の例に他ならぬのであります。

吾々は往々自然の風采と云ふことを申しますが、要するにこれは大に骨折つて技術的に修得したもので

あると云ふことを忘れられて居るのであります、それでこの自然と云ふ言葉は、天性即ち生付と云ふのとは違ふのであります。

運動が自然であると云ふことは、只にそれが度はづれない、節に中つて居るとか、力あるとか云ふことのみではありません、速度と云ふことが大に關係して居るのであります。少々話が面倒になりますが、運動が如何にも自然に見えるのには、概してその運動の早さ遲さが、それに使はれる器官の大小に相應しなければならんのであります。例へば指の運動の方は、腕の運動よりも速で、腕の運動は指の運動よりも遲いのが自然であります、卽ち指は敏捷に腕は緩徐と云ふ原則に適ふて居るのである。

この自然の風采に以ていつて、尙ほ『しとやか』『しなやか』、『なごやか』と云ふやうな女子特有の色合が加つて、玆に初めて一切の美を表現する所の所謂愛敬或は溫雅と云ふものが現はれて來るのであります。

然らばその愛敬は如何なる事柄に依て、如何に表はれるかと申しますに、先づ顏色に依て程好くその情緒が現はされるときには感動を與へるものでありますが、一寸した事にも直ぐ顏に紅葉を散すと云ふ如きは、自制の力に乏しいことを示すのであります。この表情法の應用に於て、愛敬の境を越さない度合といふものは、眴で以て一番よく分かります。

眴或は目付といふものは、昔からよく云はるゝ如く、最もよく心の働を表はすものでありまして、一寸見た所では靜止して居るやうでも、その內部の運動があつて、一種の光を呈し、又眼球の位置、運動眼筋の緊張の度合などに依て出來るものでありますが、尙ほこれに淚腺の働で以て淚が眼球を潤ほす度合に變化を來し、眼球周圍の筋肉の共働作用もあり顏筋の働もこれに加はつて來るのでありますから餘程複雜な表情が出來るのであります。

概して人間が發達して參ります程眼付だけで以てよく物を言ふことが出來るものでありまして、粗野で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文化の度が低く、精神に乏しいもの程、目に近い或は遠い顔面筋をも一緒に働かし、そればかりでなく全身の身振の助に依て表情する、畢竟精神に乏しい程、身體を多く働かすと云ふ譯であります。文明人の教育あり精神の修養ある人に於ては、只非常に激しい精神作用のある時でもなければ、妄に顔の筋肉を働かしたり、手足や身體を動がしてその情を表はすと云ふことはないのであります、若し甚しく怒るとか悲しむとか、又は非常に悦ぶとか云ふことに由て、所謂血色を變へ、面相を潰し、手の舞ひ足の蹈む所を知らずと云ふやうな場合は、これ即ち一時昔の粗野な時代の人に返つたのであります。

眴と云ふものは、外部の補助作用と目付との關係が穩やかである程、ます〳〵精神を強く、有力に、尊厳に、人を引付ける様に作用するものであります。それでありますから、猛獸も畏れて縮上つて了ふと云ふやうな眼光は、必ず顔面と身體の泰然として居ること丶相伴ふて居るものであります。

婦人に於きましては、この所謂目が物を言ふと申すことが、實に身振の上乘に達して居りまして、これが極めて自然に故意とでなく表はれます時には、愈以て人に感動を與へ、人を魅するに足るのであります。この目付、眴と云ふものは、實に複雜なもので、別に顔を見ずとも、單に眼球だけで以て、心の中に巧で居ることや、一時の情念が見透かされる程のものでありまして、目は口程に物を言ふと申しますが、時として口よりも遙に多く且つ明瞭に強く物を言ふものであります。

然しこの目付には又多少秘密狀の性質がありましてその秘密を拔き得る鍵を持つて居る人でなければ窺ひ知ることが出來ないと云ふ所もあります。それで單にこの目付だけで以て、その他の助を借らなければ、その名指を受けた人より外には、何人もその秘密を知り得ないことがある。

獨逸の歌にこんなのがあります。

„Über meines Liebchens Äugeln

Stehn verwundert alle Leute:
Ich, der Wissende, dagegen,
Weiss recht gut, was das bedeute.

試に大和詞に譯さばかくもあるべきか、

アガモフコロガ、マナコヰニ
ヒトミナハ、アヤシミタテレ
アレハモヤ、ケヽレシレレバ
コトノワキ、イトモツバラニ
シラユルモノヲ

斯の如く胸といふものは、その心に思ふ所を人に告ぐるには、最も親密に安全に出來るものであります。併しまたそれだけ鋭敏な人に逢ふては掩ふことの出來ないもので、孟子も、人を見るには眸子より善いものはないと申して居ります。又由井正雪に熊澤蕃山で御坐いましたか、一度互にじろりと顔を見ただけで、お互に彼の人間は油断のならぬ人間であるから、決して用ゐてはならぬと申したと云ふことであります。兎に角目と云ふものは、最も善くその人の心理狀態を映出するものでありますから、愛敬の上には大關係のあるもので、十分玆に注意しなければなりません。

次に口の運動でありますが、これも愛敬にはなかなか尠なからぬ關係があるもので、涎の出そうな締のない口、又苦蟲を喰潰したやうなへの字口、樣々の格好があつて、それに微笑する時の口元、濟し切つた時のおちよぼ口、憎み罵る時の歪口、隨分色々の運動を致すもので、矢張その人の精神狀態を示し、又容易に癖のつくものであります。

その他の顔面や頸の筋肉は、頭の運動と共働して、目と口の表情を助けて、續發的に聯合して働くのであります。次に大切なものは手の運動でありまして、これで以て餘程よく思想、感情を表はすことが出來ます。それで畫工は、この手が全身に對する位置を利用して、能くその感情を活躍させて居ります。實際吾々は、手だけで以て、隨分希望したり、斷を言ふたり、人を呼んだり、威したり、歎願したりする

ことが出來まして、彼の所謂暴迦踊を見れば實によく解かることであります。併しその手の美妙なる運動は、心を用ゐて、愛敬運動となるやうに養成しなければならぬのであります。これには觸覺が完全に發達して、感情を細やかにする外、その手の形、姿勢、運動、手振を改善して、高尚優美の域に躾をしなければならんのであります。これは常に意を用うれば、必ず出來るのであります。指の運動も、常にこの意を以て練習して、格好よく、自分の意のまゝに愛敬を表し得るやうに、種々の運動に習すことが必要であります。菓子を一つ撮むにも、餘程手付に愛敬と、不作法との差異が立つものであります。

腕の手に於けるは、頸の頭に於けるが如き關係でありまして、畢竟運動の支柱となるのですから、特に愛敬運動として述べる程の必要もないのでありありますが、顏や手について申しました所の事柄は、身體全部又何の部分の運動についても同樣の譯でありまして、若し身體の他の部分も顏や手の如く露はされて居るものならば、歩行の如き實用的の運動でも踊の如き審美的運動でも一層よく訓練されるに相違ないのであります。

一體この身體の建築的美、彫刻的美といふものは、運動の美に由て初めて力あるものとなり、價値あるものとなるのでありまして、顏面は、その精神の働きを表はす時よりも美なるはなく、手はその仕事せる時よりも美なるはないのであります。

終に尙ほ一つ愛敬に關して大切なる事は、言葉遣であります。運動は目に認められるのですが、その目で認めることの出來ない精神の働に至てはこれを言葉に依て表はすのでありまして、美しく、やさしくさはやかに、明瞭な、物の分かつた女の言葉と云ふものは、不思議な程、人に感動を與へて愉快に思はしむる力のあるものでありますが、その反對な場合には、又以てたまらぬ程不快なものであります。今迄は實に美しい、立派な、氣品のある婦人であると見られて居るのに、突然調子はづれの、がらく

した聲や、又は吃るやうな或は、言葉せはしく、締のない發音とか、甚しい訛言や、お國言葉で以て譯の分からぬ事を話しかけられた日には、忽ち興さめて了ふことであらうと思ひます。昔から申すことですが、或人の申すのには、京の女の陰で話すのを聞いて、如何なる美人かと思ふて垣間見て、その醜婦なのに喫驚し、奥州の女の坐つて居るのを見て、その美人なるに恍惚としたが、その言葉を聞くに至つてあつけに取られたと云ふことで御坐います。これは單に發音だけのことでありますが、入らざる漢語や、英語などを交せたり、甚しき文法違のことを言ふたり、非論理的の判斷をしたり、無遠慮に自分の好き嫌ひを言ふたりすることは、その人の心様も見えて、人に不快な感を與へて、興をさますものであります。

　めでたしと見る人の心おとりせらるゝ、本性見えんこそ口おしかるべけれ。(徒然草)

精神の修養もなく、言葉の練習にも勉めない人になりますると、無邪氣を裝ふたり、所謂あまへると云ふ樣な言葉遣をしてその足らざる愛敬を繕ふとするものでありますが、これは寧ろいやらしいもので偶偶以てその下劣なることを示すに足るのであります。彼の藝者など申すもの共の間に用ひらるゝ言葉は此の種類のものであります。

手紙も精神を文字に寫したものでありますから、矢張言葉と同一の原則に依て愛敬を助け或は壞すもので、大に人の感情を害したり、快からしむるものであります。

最後に申述ぶべきことは、美しき心を以て居る人は縱令その外貌は醜くとも、醜惡なる心を懐て居る美人よりも遙に愛敬のあることであります。これは實際世の中に於て見る所の事實でありまして、ギーベルトの記す所を見まするにレスピナッス孃と云ふ人は、痘痕のある醜い顏であつたが、此人に對して話をすると、暫時の間にその容貌の缺典はすつかり忘れさせられて了まつて、一種なつかしく快き尊敬の

情に充たされると申して居ります。何人も多少斯樣な不思議な力のある人に逢ふものでありますが、これは卽ちその精神の美が外貌を尊嚴にし、美化して內部より發する所の光に依て、一切の不調をも被ふて了ふに足ると云ふ證據であります。

人品容貌こそ生れつきたらめ、心はなどかかしこきよりかしこきにもうつさば移らざらん。（徒然草）

實に愛敬ある婦人と云ふものは、萬事について幸福なものであります。所謂「おもがつ」神とは斯樣な人を云ふのであらうと思ひます、乃ち此の種の德ある人に逢ふては、何事でも、快くその思ふ通りに成就せしめられるのでありまして、如何なる頑固な人間でも、何とはなしに素直にされて了ふのであります。

斯樣な愛敬に富んで居る人が一度笑ふ時には、實にえも云はれぬ悅ばしい觀があり、話する時には感動を與へ、默す時には嘆美の情に充たさるゝものであります。若し又步を移す時には其處に窈窕たる姿態が活現し、坐する時には閑雅の風采を見るのであります。所謂起てば芍藥、坐れば牡丹といふ風であります。その歌ふや節に適ひ、舞ふや美の神これと共なり、談るや智の神これに寄るかとばかり思はしめるものであります。

兎に角顏色、目、口、喉、手等に依て、筋肉は心中の働を表現することが出來るのであります。卽ち顏を赤らめ、口を歪め、挨拶し、握手をし、目遣をし人を威したり、踊たり、饒舌たり、凡て心の運動を反映するのでありますから、筋肉はこの意味に於て心情の媒介者であります。

同一の方法を以て筋肉を使ひます時には、遂に定まつた型を成すものでありまして、顏面を屢〻働かせば、それが遂に永續的の顏の表情となるのであります。然れば相貌と云ふものは精神の印章であると申してもよいのであります。

而して此筋肉の運動といふものは練習に依つて隨分色々の働をするものでありまして、手の如きは特に

自在に出來ます、例へば盲人の手の如きは腕から指の尖まで訓錬を積んだものと申して宜しいのであります。兎に角何人でも姿勢、手の運動及び使ひ方は敎育と修練の程度に依るのでありまして、隨意筋の働く範圍に於ては、その敎育に依て、醜い姿も隨分改良を加へることが出來るのであります。例へば口付のまづい人でも、なか〳〵愛敬ある表情をすることが出來る、要するに愛敬といふものは、精神の修養と身體の訓練と相俟つて始めて完全なるを得るものでありますから、その人〳〵の愛敬を人工的に高める手段としては、是非敎育に依らなければならんのでありまして、精神の敎養と身體の訓練と竝び行はれなければならんのであります。

人間の不思議

人間といふものは、神樣の御手によつて作られたものであるといふことは、世界中何處の國の神話にでも必ず出てゐることでありますが、今日の新しい學問の上では、決してそんなことを許しません、第一製作人たる神樣といふものの存在すらも、認めてはゐないのであります、それ故神樣が人間を拵たなどといふことは、全く認められないことであります、併しなぜ世界の元始人民が悉く約束でもしたやうに人間の製造者を神樣といふものにしてゐたのかといふと、これには一ツの理由のあることで、成程と首肯くことのできることがあるのであります、それを一寸ここでお話致すことに致します。

朦昧野蠻の無智の人間は、天體の宏大なことや、天體の諸種の變化、現象つまり雨が降つたり、雪が降つたり、雷が鳴つたりすることが、何の理由に本づくかといふことを知らなかつたから、これは甚だ不思議なことであるとして、この不思議なことは必ず何か非常に豪い人がゐて、その人がするのであるとこう考へたのであります、そうしてその豪い人を神樣といふ名前にして、その神樣といふものは、世の

中で不思議といふ不思議は何んでも彼んでも、皆んなすることが出來るのであると考へました、それから人間が病氣になつて、外から見ただけでは外の人間とすこしも變化がないのに、死んでしまうといふことは、彼等に甚だ不思議なことであつたものですから、この不思議な病氣といふものは神樣がなさるのであると思つて、今日でも行はれて居るやうに、病氣になれば、神樣にお祈禱をして病氣を癒やそうとすることが始まつたのであります、今日この開化た東京の中央に、病氣のときに、お藥師樣や、水天宮樣や、そのほか方々の祠のお守札を病人の枕の下に入れたり、またはそれを湯に入れて飲んだり、甚だしきはお神水といつて、神社の手洗鉢に溜つて腐敗つた雨水を飲んだり、またはお供米といふものを食べたりして、醫者から貰らつた藥を飲まず、醫者から言ひ付けられた養生法を守らずにゐる人がありますが、これらの人は、今から三四千年前の眞裸體で何もせずに、木の實や草の根を食べて、山に穴を掘つて家として、年中動物と戰爭ばかりして居た野蠻人と、全く同一な人等であります、誠に可憐な人等ではありませんか、而してこんなことが、立派な教育をうけた人等の家庭で行はれてゐるのですから益々不思議ではありませんか。

話が脇道に這入りましたが、兎に角野蠻人は、不思議なことゝあれば、何でも神樣といふものがするのだと思つてゐたのでありますから、人間といふものが出來たといふ不思議なことも、やはり神樣がしたのであるといふ解釋を下したのであります。

さて野蠻人が人間といふもの、つまり自分等の出來ることを不思議に思つてゐたのは、尤なことであります、今日のやうに學問の進歩した時代ですらも、人間が生れるのに、なぜ男が出來たり女が出來たりするのかといふことは、全く判らないのであります、唯不思議といふより外はないのであります、そして人間の不議思といふところはこればかりではありません、一ツ〱算へあげて見ると、甚だ澤山あ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るものでありますが、唯今四千年前の野蠻人と成つて、この不思議な個所を算へ上げて見やうと思ひます。然し唯普通たれにも判りやすいやうなことだけに止めて置いて、また生殖器に關係することは一切申さないことに致します。

先づ上の方から始めますが、かみの毛といふものはこれは甚だ不思議なものであります、なぜかと申しますと、これは外の處の毛とちがつて生れた時分から生へてゐて、大切な腦髓を保護するといふ役目を持てゐるのであります、男の方ではあまり長くしてゐる人がありませんから、克くは分りませんけれども、女子の方では、十二三歳以上になると、一本一本の毛は、尖端が皆二本か三本位に分れてゐるものであります、これはなぜ分れてゐるのかといふと、これは毛の形を美しくする目的であつて、頂度飾に用ゐる房と同じやうな意味のものであります、若しこれが分れてゐないときは、千本の毛は千本に見へるだけで、一束にして見ると、根の方も尖端の方も同じ太さであります、併しこれが細くなつて、分れてゐるものでありますから、實際は千本の毛でも、見た所では五千本以上に見えて、一束にして見ると尖端の方はふわりとふくれて、甚だ立派な形となるのであります、これも婦人の美を輔ける道具として不思議なことではありませんか。

また毛といふものは、いくら切つても切つても、無くなるといふことは決してないもので、時々切る方が却て克く生長するものであります、これも一つの不思議であります、女の兒は髮の尖端を時々切つてゐますが、これはその生長を助けやうとするのであつて、理に適つたことであります、縱令切らないでも、始終少しつゝは生長してゐるものでありますけれどもこれを切ると早く生長するのであります、そして切られるのは尖端であるのに、生長するのは根の所であるといふのは、これまた不思議の一つであつて、毛の尖端が切られると、直ぐに毛根の所に、電信が通じて、速に生長作用を起せと云ふのであり

ます。
脳髄を保護するために、毛が生へてゐると申しましてもそれだけの證據はどこにあるかといふ疑問を發せられる方もあるかも知れませんが、若しそう云ふ疑問を受けたときには、次のやうな立派な證據をお目にかけます。
毛といふものは、外力の壓迫に對して夥しい抵抗力を持つてゐるものでありますが、これはどうすれば判るかといふと、毛を圓く玉にまるめて、それを押へて見ると、一度は壓し付けられますけれども、押へてゐる手を離せば、直に元の通りにふわりとふくれるものであります、そんなことをしなくとも、毛を押し分けて、直接に頭の皮を打つたときと、毛を十分に被ひかけて、その上から打つたときと、どちらが強く感じるかといふことを調べて見れば、毛の效能は直に判るものであります、或國では軍艦を作るのに、艦壁の鐵板の間に、毛髪を詰めて、大砲の彈丸の勢力を削ぐやうにしたといふことが、いつかの新聞に出てゐましたが、これは最な理屈があることであります。
頭はそれでやめて置きまして、もう少し前の方に下りて参りますと、眉毛といふものが二つあつて、頂度眼の上に横に置かれてゐます、これはまた不思議なもので、人間の容貌の上から申せば、これは無い方が良いのであります、これは一寸紙を貼つて、眉毛を蔽して鏡に向つて見ると 直ぐ判ることでありますが、人間の顔には眉毛の無い方が餘程温和に優美に見えるのであります、併し昔から有り來つたもので、いやな病氣になるとこれが無くなるといふのでありますから、今日では眉毛は、大切な顔の道具と成つて了いました、一寸一口譚を申し上げますが昔し業平といふ美男子は眉毛を抜いてゐたといふことを、或人が聞いて、それなら私も眉毛を抜いて、業平のやうな美男子に成ふと思つて、痛い思ひをして、眉毛をすつかり抜いて了いました、そうすると或日友人が尋ねて來て、その人の顔をみて、眉毛が

一本も無いものですから、どうしたのかと聞きましたら、抜いたといふので『よせばいいのに、まるでいなりみたいだ』と申しました、そうするとその男は得意になつて『そのなりひらに見て貰ふ積りで抜いたのだ』と申したといふことであります。

この眉毛といふものは、眼の内に汗の這入らぬために生へてゐるものでありますが、それはだれでも判ることで、別段證據を上げる必要はありません、併し眉毛がたれのも皆内の方から外の方に向つて生へてゐるといふとは、是はどういふ理由であるかとお尋になる方もありませう。なる程眉毛が外の方から内の方に向つて生へてゐる人は、まだ一度も見たことはありません、皆な内から外に向つて生へてゐます、萬人が萬人皆そうでありますから、これには何か理由のあるものであらうと思われます、思われるばかりではありません、實際有力な理由があるのであります。今汗が額に出て、それが流れて來て、眉毛の所に來たと致しますと、この汗はどこかに流れて行かねばなりません、併し眉毛から下の方には流れることが出來ないので、また上の方にも流れて行くことは出來ないものでありますから、必ず横の方に行かねばなりません、横の方といへば、内の方では鼻の方、外の方では耳の前であります、さて若しこれが内の方、つまり鼻の根の所に行つたと致しますと、鼻の峯をつたわつて、鼻の尖端の所につらゝになつて吊下つたり、それが落ちて脣についたり、または鼻の根の所から兩方に分れて落ちて、直に眼の内に這入つたりすることがありませう、そうなると大變五月蠅くて、心地の惡いものであります、眼に這入れば眼の病氣を起すことがあります、それ故そんなことの決して無いやうに、眉毛は内から外に向つて横に生へてゐて、この所に流れて來た汗を外の方に流れさせるやうにするのであります、さて外の方に流れて行くとどふなるかと申しますと、耳と眼との間の廣くて、何も道具の置いてない空地を通つて、下の方に流れ落ちて了ふのであります、耳の

内には這入るものではありません、それは耳の所で申し上げます。

この意味から申せば、眉毛の外の方は、少し下つてゐる方が、眉毛の本分をつくすのに便利であります、縦令まなじりが上つて居ても、汗は必ず毛の方向に流れるものであつて、鼻根の方に流れるものではありません、それ故まなじりの下つてゐない人でも、別に心配することはありません。

その外顔の内だけでも、まだ〳〵澤山お話しすることがありますが、これらはまた後日お話を致すことにして置きます。この次は『顔の道具』といふ題で何か不思議なことをお話致しますから、九月の號をお待ちあらんことを願います。

活ける家（承前）

（三五）活ける家の便所

吾人の身體内へ輸送まれた飲食物の大部分は、胃腸の中で消化され、其中に含まれてゐる身體の保存榮養に必要な成分は、胃腸の内壁にある吸收装置により攝取され、次第に血液の中に入り、血液の循環により身體各部に配布分送せらるゝものでありますが最早や身體の保存榮養に不必要な成分若しくは全然身體に有害な成分は、再び體外に排泄されねばなりません。此排泄の器關が卽ち

活ける家の便所

であります。入口あれば以て出口なかるべからず、臺所あれば以て便所なかるべからず、而かも臺所と便所とは客室よりも、内庭よりも、最も衛生的注意を拂ひていやが上にも清潔に保つべき所であります。

活ける家の小便所は腎臓と、膀胱と、尿道との三つで、膀胱と腎臓との間には輸尿管が左右共に打ち架され、腎臓で出來た尿は此輸尿管を傳うて膀胱に入り、膀胱から尿道を經て排泄されるやうになつて居ります。是等の器關は吾人の生活上頗る樞要なも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のであつて、之なければ一日も生命を保つこと能はず、病氣で之に故障が出來れば忽ち生死の問題に立ち到るのであります。

○○腎臓は腰椎の兩側にある左右二個の姉妹器關で、其形は五月豆の如く、其重量は體重の約二百四十分の一、其大さは長さ十一・五、幅五・五、厚さ三・七センチメートルであります。腎臓の周圍は纖維膜と云ふ厚い被膜から包まれ頗る平滑でありまするが、其内部の構造は甚だ複雜精巧を極め、體内を循環する血液は此腎臓の關門を通過し、恰も水濾しで濾された水の清麗なるが如く、皆此腎臓から濾過されて不要若くは有害成分を含まざる良き血液となるのであります。昔しの漢法醫すなはち支那の醫學では、腎臓の機能を大に誤解し『腎臓は元氣のかゝる所にして、志を藏し、骨を養ふの臓なり』とし、腎臓病によつて起る症狀も『尿分泌の障碍に關するものゝみにあらざるやう』に思つて居りましたが、今日から見れば實に笑止の至りであります。

尿はビールの様な淡黄色の液で、一種の臭氣と鹽味とを有ち、一日の分泌量約五百乃至一千五百瓦位でありますが、種々の病氣によりては其色に濃淡の差を生じ、その分量にも多少の變化を來すものであります。たとへば身體に熱があれば尿は濃く少く、黄疸と云ふ病氣になれば濃黄で泡立つて居り、腎臓炎にかゝればその分量が減り、糖尿病にかゝれば尿量が頗る多くなるものであります。

尿の中には身體に不要若しくは有害な成分を含んで居るものでありますから、尿利が絶へず良くなければ是等の不良若くは有害成分は、體内に蓄積循環して大に身體を害し、往々にして危險の淵に沈ませることがあります。後世より欽仰せらるゝ鬼將軍加藤清正の蔚山籠城の時には、敵兵より糧道を絶たれ馬を屠つて其血をすゝり、果ては己の小便を飲んで渇をいやしたと申すことでありますが、有害物を含んでゐる小便を飲んでは、士卒の健康の破壞減却されるのは目前であります。思ふに當時これが爲めに

病魔に苦しめられたもの〻頗る多かつた事でありませう。さなきだに急性若くは慢性の腎臓炎で尿利が悪く、眼瞼や顔か浮腫やうになりますれば、尿毒症の手は、無残にも患者を其父兄親族中より捥ぎ取り強いて他界へ連れ行かんとするものであります。故に腎臓病の患者では尿利を良くすると云ふのが唯一の療法でありまするが、又腎臓出血とか腎臓結核とかで一方の腎臓さへ健全であれば、腎臓剔出と云つて全然腎臓を切り取つて仕舞ふか、腎臓切開と云つて單に腎臓を切開くだけにするか、或は腎臓脱皮術と云つて前に述べた腎臓の纎維膜だけを脱き去つて仕舞ふことがあります。

〇〇膀胱は尿の受容器で、腎臓から分泌された尿は輸尿管を傳はつて、滴々として雨滴の如く絶へず膀胱中に注ぎ入るものであります。膀胱は骨盤内に位する伸縮自在な筋肉の袋で、男子では直腸の前、恥骨の後にあり、婦人では恥骨と子宮との間にあります。膀胱の大さは男子では平均七百三十五、婦人では平均六百八十立方センチメートルの水を容るゝに足るそうでありますが、高貴の方殊に御婦人などで、長く排尿を我慢して居る習慣があれば、膀胱の筋肉も弛緩んで次第に廣く大きくなることがあります。輸尿管から膀胱に入つた尿は、自然の巧妙なる構造により決して逆流することなく、又尿道と膀胱との間にある弾力性纎維の括約作用により、絶へず尿道に流れ落つる不始末も無く、尿が膀胱内に多量に溜つて其緊張力が以上の纎維の弾力よりも強くなれば、こゝに便意を催ふして膀胱筋の収縮により排尿するに至るのであります。此膀胱の排尿筋及び収縮筋を支配してゐる神經は、腰部の脊髄より分派てゐるものでありますから、脊髄病の時には此神經の作用が失せ、或は尿閉と言つて尿が排泄なくなり、或は尿利失禁と云つて絶へず點々滴々として垂れ流しのことがあります。すべて便意を催す時ば餘り長く我慢せず、速に排尿する樣にしなければ、衛生上多少の害を免れません。

尿道は婦人では短かくして膣口の上方に開いてゐますが、男子では長く、従て其道中に於て種々の故障を生じ、甚だしく身を苦しめることがあります。

活ける家の大便所は、直腸と肛門とであります。直腸とは大腸の末端で、薦骨の前面を下降つて、肛門括約筋の部分に達する迄の腸の一部分であります。夫れより下は肛門となつて糞便排泄の途をつくつて居ります。

直腸及び肛門の排泄物は、腎臓及び膀胱尿道の排泄物と異り、身體組織の新陳代謝によつて生ずる血液中の有害若くは不要成分を排泄するのでは無く、口腔より入つた飲食物中の滋養成分の全く吸ひ取られた殘渣……糞便……であつて、之に腸の中で分泌された消化液の殘部と、腸の中に開いてゐる諸腺によつて、臓器から排泄された物質（重金屬の鹽類、鐵、鉛、水銀等の如き）とを交へて居るものであります。

胃腸の機能さへ健全であれば、飲食物中に含まるゝ滋養分の大部分は吸収され、直腸及び肛門に達する頃には既に滋養分のなき殘渣の塊……糞塊……となつて排泄さるゝものでありますが、不養生若しくは胃腸病のため、飲食物中の滋養分が腸から吸収されぬ時には、一旦胃腸の中で糜汁状になつた飲食物はその儘腸を通過ぎ、所謂下痢便となり、或は之に粘液を交へて排泄されるものであります。如何に天下の佳肴をあつめ、如何に山海の珍味を味つても、下痢便となつては身體の榮養に對して毫も益するところは無いのであります。

糞便の檢査は胃腸病の診斷には缺く可からざる所のもので、糞便の硬軟、色澤、分量、臭氣等は各種の病氣に多少の特徴を與へて居ります。たとへば普通の下痢便若しくは水様便は腸加答兒、唾液のやうな白い粘液と紅い血液とを交へた粘液血便は赤痢病、豌豆を擂り潰したやうな豌豆様便と稱するものは腸窒扶斯、瀝青の様な眞黒な便は胃若しくは小腸の潰瘍、米の研ぎ水の様な多量の水様便は虎列剌、粘土

の様な白色便は黄疸に特有であります。
概して肉食する者は黒褐色の硬便で其量少く、草食する者の便は黄褐色の軟便で其量多く、牛乳飲用者の便は黄白色、卵食者の便は黄色柔軟でありますが、種々の藥品によつても亦便色の異ることがありますから、平素衛生に心掛けて居らるゝ方は、是等の關係に就て多少心得て居らなければなりません。
顔面蒼白たる貧血症の人などでは、腸の中に蛔蟲、蟯蟲、十二指腸蟲その他の寄生蟲が宿つてゐて、腸の中へ來た滋養分を悉く奪ひ取つて仕舞ふから貧血になるので、糞便の檢査によりてそれが發見せらるることが多くあります。昔の醫學では糞便を嘗めて病氣の輕重を判斷したこともあると見へ、越王勾踐が病氣の時、呉王夫差はその糞便を味つて病症の輕いことを申し上げたそうであります。が、今日の糞便檢査と云ふのは決して此のやうな味覺診斷ではなく、肉眼的、顯微鏡的若しくは藥品的の檢査であります。

糞便は此の如く排出さるべき性質の不要物でありますから、一旦此排泄路の杜絶されることがあれば、由々しき大事に立ち到るものであります。かゝる状態を醫學上では腸閉塞症、俗間では糞詰りと云ひ、下劑を浴びる程飲んでも、灌腸を流す程致しても、何うしても便通は無く、腹部はむく／＼と膨満れてその疼痛堪へ難く、嘔氣は引きも切らず、果ては吐糞と稱して口から大便を吐き出すやうになり、氣力は失せ、四肢は冷へ、全身に冷汗を流し、苦絶悶絶はなはだしく、見るから悲惨の状態に立ち到ることがあります。
腸閉塞は腸の捩じれるため（腸捻轉）、一方の腸が他方の腸へ嵌り込むため（腸重積）、腸が或索條體で絞扼らるゝため（腸絞扼）、腸の中へ緊く糞便の詰まつたゝめ（腸壅塞）、腸が或ところへ嵌まり込んで出ないため（腸嵌頓）、腸壁が麻痺して其中にある糞便を排出するの力なきため（腸管麻痺）等で生じまするが、之を治す唯一の方法は開腹術で、而かも手術の

決心がつかず、荏苒時期を逸すれば、到底恢復しの付かぬ様な悲運に會するに至りますから、不幸にして此かる場合に會した際には、躊躇せず、狐疑せず大英斷を以て、潔く身を手術臺上に横へねばなりません。

鼻の話（承前）

鼻の外形の事は之れで措きまして、次に鼻の中の事を概略を御話致しませう、先づ鼻口をはいりますれば、

鼻前庭

と申す所があります、此所は外の皮膚と同じ性質をもつて居りまして、鼻毛の生へて居る所であります、此の鼻毛の長さ、多少等は種々でありますが、此れは人の吸い入るゝ空氣中の塵芥や小動物が、鼻より、氣管の方に飛びこまぬ様に、呼吸道の門口に網を張つて居る様なものであります、ですから此れは生理上大に必用なものであります、然るに日本人には昔から鼻毛を剃る習慣がありますが、此れは自然が折角拵へてくれた自衛上の機械を破壊する様なものであります。

日本にも西洋にも、鼻毛の長い人は、淫を好むといふ様な傳説がありますが、此れは謂はれなき事であります、勿論あまり長くて鼻口外に出て居る様では婦人には醜いものでありますから、適當に刈るのは差支ありません。

此鼻前庭を入りますれば、卽ち

鼻腔

でありまして、左右の腔は間にある薄き鼻中隔（俗に鼻の障子）によりて分たれて居ります、そして其腔は入口こそ小さくありますが、驚く程大きなものでありまして、上下の大さが一寸近くもあります、其の側壁には三つ或は四つの前後に走つて居る甲介といふものがあつて鼻腔内に突出して居ります、此甲介は動物の鼻には著しく發育して居りまして、兎

の如きは十有餘に達します、此れは鼻腔の内面をなる可く大きくし、且つ鼻腔の廣さの過大にならざる爲めのものであります。動物の甲介には澤山の嗅神經がありまして、嗅覺作用を營むで居ります。

猶鼻腔内面を大きくする爲めに

副鼻腔

といふものがあります、此れは骨の中にある空洞でありまして小さな孔を以て鼻腔に通じて居ります、副鼻腔は嗅覺作用を營む一部分をなして居りますが嗅覺の甚しく發育して居る動物におきましては、此人間にては何の用をなして居るかわかりません、併し此れは屢々病氣の根源をなして吾人に大害を與ふるものであります。

即ち此所に膿の蓄積せるもので

蓄膿症

と申すものは最も多き病氣でありまして、殊に日本人には此は一の國民病と見る可き程多數のものであります、田舍にゆきますれば多くの小兒等の二本の鼻汁を流して居るものを見ますが、あれは皆此疾病にかゝつて居るものであります、そして此等の病氣は鼻汁が出るばかりでなく、種々の症狀を來すものであります。

此の副鼻腔には又往々癌腫を發生して、人命を犧牲にする事あるは實に恐るべきであります、癌は總て四十歳以上の人に多いものでありますから、四十歳以上の人が鼻のつまる病氣にかゝりました時は注意せねばなりません。

鼻腔の後ろは左右各一つの小孔によりて咽頭の上部に通じて居ります、此の鼻と咽との間を

鼻咽腔

と申します、此所の病氣も亦鼻の呼吸を妨げる事鼻腔内の病氣と同じであります、其中最も多いものはアデノイド増殖症といふものでありまして、小學兒童及其以下の小兒に發生し、其の精神の發育を妨げ、遲鈍ならしむるものでありますから、人の母たる人は大に注意を要するものであります。

以上は鼻の構造の大體でありますが、其詳細をよく見る時は極めて複雑したものであります、其働きも亦複雑なもので之を二大別すれば呼吸及嗅覺の二つであります。

呼吸道としての鼻

は人體に空氣の出入する門戸でありまして、吾人の生活に要する總ての空氣は皆此所より入るのであります、鼻の構造の複雑でありますのは一は吸入さるる空氣を清潔にし、一定の溫度と一定の濕氣とを與へて氣管及肺を害せぬ様にする任務を有して居るからであります。

即ち先づ第一には少し大きな塵芥や、小動物は鼻毛によりて支へられます、朝起きた時、又は空氣の汚れた室に入りたる後は鼻汁の黒きを見るは、誰も知る所であります、更に鼻毛の網をぬけて入りたる微細なる塵芥は種々に彎曲せる狹き鼻腔内を通りぬける間に、其の粘膜に附著し、喉頭を經て氣管に達する頃は外界の空氣に比しては著しく淸められたものとなります。

次に

空氣を溫める事は

夏の日は不必用でありますが、冬になりましては、外界の空氣の溫度は零度以下に下りますから、斯樣な空氣を直接に喉頭或は氣管に吸ひ込む時は直ちに其の粘膜を害して、病氣を起すものであります、鼻は又此れを妨ぐ任務を有して居ります、即ち狹き、屈曲せる鼻腔を通る間に、さしもに冷かなる空氣も著しく溫められて喉頭に達する空氣は零度以下にある如き事はなく、從つて其の害を受くる事も少いのであります、併し、空氣の寒冷の度が甚しき際には鼻の粘膜が先づ害せられまして、所謂『はなかせ』を引くのであります、其時は鼻腔内の空氣の通る道は妨げらるゝものでありますから、口より呼吸を營み從て種々の他の疾病を惹き起すのであります。

第三の呼吸に對する鼻の任務は

空氣の濕度を調節する事

であります、過度に乾燥せる空氣は寒冷なる空氣と同じ様に粘膜を害ふものであります、粘膜は外皮と異なり常に濕ふて居るものでありますが、乾燥せる空氣が通過する時は粘膜の表面も乾燥します、鼻の粘膜には澤山の粘液が分泌せられまして、其が空氣の通過する時に蒸發して、吸氣の濕氣をまして、喉頭以下の呼吸器を保護するのであります、鼻のつまる時の咽の乾く事は諸姉も御存じで御座いませう。前に申しました副鼻腔内の空氣は又呼吸に際し、一部は新陳代謝致しまして、吸氣の溫度を高め濕氣をますに有效なるものであります。

鼻の閉塞せる時

即ち鼻呼吸の營まれぬ時は如何なるものでせうか、猫の如き動物は口より呼吸する事を知りませんから鼻を塞ぐ時は暫時にして窒息致します、之に反して犬の如きものは平時も鼻と口と兩方より呼吸して居りまして、口を閉ぢて置く時は非常に苦悶して遂に斃れます、人間は其中間にありまして、鼻を閉塞しても、口を開いて呼吸する事が出來ますから、死する様な事はありません、併し、口は廣く短い腔でありますから、充分鼻の代用をなす事は出來ません、故に鼻呼吸の出來ない時には種々の障碍を起すのであります、次に口腔呼吸の害をかいつまんで御話致しませう。

鼻のつまる事まだ輕い時は

鼻より吸ひ入るゝ空氣は不充分ではありますが、暫時の間は我慢して鼻で呼吸し居ります、併し數回の後には身體の要する空氣に缺乏を來すものでありますから、突然口を開いて一二回深呼吸を營みます、殊に此れは食事中には頗る不快なものでありまして口を開いて呼吸する時は空氣は口中にある食物の間を一種の不愉快なる音をたてゝ侵入致しますから、交際社會などにおきましては殊に不快に感じます、此の口を通して呼吸する事が不快である爲めに、自然口腔呼吸をさけんと勉めて、甚しき苦痛を覺ゆるものであります。

鼻が全く通らぬ様になりましては最早や遠慮も何もありませぬ、常に口を半ば開いて呼吸せねばならぬのであります、此口を開いてある事は外貌が悪いは勿論の事で、誰れも之れを阿呆づらと申さぬ人は御座いませぬ、そして食事中は呼吸が全く出來ませぬ爲めに食事は困難となり、食慾を滿足する事が出來ない爲めに榮養障碍も起すに至ります。

殊に乳兒が鼻の呼吸を害せられた時には、乳房を含む時は呼吸が全く出來ぬ様になりますから、充分に乳を飲む事が出來ません、從つて小兒は多く機嫌悪しく、おちついて睡られなくなり、榮養は害せられ數日の後には全身甚しくやせ衰へ、遂には鬼籍に上る事も少くはありません、小兒の鼻の閉塞は誠に注意を要するものであります。

（以下次號）

美容法（承前）

第四、毛髪の養生

毛髪の養生には、男子でも婦人でも先づ洗ふことゝ按摩することが第一でありますが、尙ほこれに櫛梳ることゝ刷毛をかけることも加はります。これは度度行ふても害はありません。

面を洗ふには、水が良いことを申しましたが、頭を洗ふのには、冷水は餘り感心致しません、微温の方が宜しい。冷水を高い處から瀧うたせるのは害があります、尤も一度湯から上つて水に掛かるのは、一週に一回位は差支もないのです。夏の暑い時分に、毎日冷水を被ぶつた爲めに、甚く髪の毛が抜けたと云ふ例はよく觀る所であります。

髪を洗ふ度數につきましては、隨分意見がまち〳〵でありますが、先づ男子ならば一週に少くとも二回婦人であれば尠くとも一回頭を洗ふと云ふことにして宜からうと思ひます。

頭を洗ふのには如何するかと申しますれば、水と石鹼で洗ふのでありますが、十分に頭をよく洗ふと云ふのには、どうしても石鹼精を用ひなければなりません、これが最も良いのであります。石鹼精は藥店で賣て居ります。これを用ひますには、十分にこれを頭につけて、水で以て能く泡の立つやうに揉んで五分間程そのまゝにして置きます。若し男子のやうに朝頭を洗ふのであれば、此間に面を洗つたり、歯を磨いたりして了ひまして、それからもう一度指を頭の皮膚につけて、よく塗擦して洗ひ、次で水を十分に灌いで髪を洗ふのであります。併しこの石鹼精は餘り香の好いものではありません。男子なれば、十分水で洗へば臭氣も無くなりますが、婦人では一寸容易でありません。それで婦人方は餘りこれを好まないのであります。その時には、左の處方に依る石鹼精を用ひれば宜しい。

白色カリ石鹼二分、酒精及グリセリン各一分

これに何ぞケルン香水のやうな香料を加へれば上等であります。

それから婦人方が髪を洗ひますにはシャムポン水も至極結構です、但し賣つて居ります物は必要な物だけは含んでは居りますが、只卵黄だけは思ふやうでありません、且つ此の種の溶液は永く保ちません。それで確實なシャムポン水を造らへやうと思ふなら左の處方に由つて自分で造らへるのが一番よろしう御座います。

卵黄四個と一食匙のサルミヤク精と百瓦のカリ石鹼精とを攪拌し、これに硼酸一食匙半と水とを加へ一リートルとす。

この溶液なれば使ひ終る迄腐る氣遣はありません。頭のフケが多くて困る人は液性のテール石鹼を用ひて洗へばよろしい、この種の製劑は色々ありますがカリ石鹼精に五プロセントの純テールを加へたものでもよろしい。

洗髪藥と稱する物は澤山ありますが、其中で髪を洗ふ物と髪に付ける物とを區別しなければなりませ

ん、髪と頭の皮膚はまづ第一に何かを以て洗つて、それから髪に付ける藥を用ひるのであります。

通常髪を大切にする人を見まするに、頗る高價な佛蘭西あたりから輸入されました處の製劑を髪に付けたり塗つたり致しまして、それからその香りの良い頭に櫛或は刷毛を用ひるやうでありますが、これでもつて何うなるかと申しますのに、頭部に付いてる不潔物が極細にわけられて、フケは摺りつぶされた上に、其の粉碎された不潔物と、頭部の脂肪とで一種の乳劑樣の物となり、それが頭の地面に塗り付けられるやうになるのであります。これは髪の發育には只害があるばかりであります、元來非常に良好な毛髪藥であつても其の使用法が間違つて居りましては却て害を來すのであります。毛髪藥を付けますには、まづ頭を洗髪藥で洗つて、其不潔物がすつかり洗ひ落された上で用ひなければなりません。

今自分が用ひて居りまして、效能があるやうに思はれまする毛髪藥が、眞に價値ある物であるかどうかと云ふ問題はこれは醫者にたづねました處が致方がありません、なぜならドンナ醫者でも市中に賣り捌かれて居る數百の製劑を一々試驗する譯にはまゐりませんから、とてもどうかかうと判斷を下す譯には參りません、例へ醫者が經驗上から一定の販賣品の成分を知つた處で、これがあまり役には立ぬのであります、なぜかと申しますに、かやうな販賣品の成分と云ふ物はなるべく分らぬやうにしてありまして、時時變化されるものでありますから決して當には出來ません、それで昔から十分信用のある性質の分つて居る一二の製劑は別物と致しまして、普通何んで出來て居るか原の分らぬ品を用ひますよりか、處方に由つて何處でも容易に買れる物の方が遙かに便利で且つ確實であります。然しながら賣つて居る處の化粧品は一切惡い品ばかりと云ふ譯ではありません、實際成るべく效のある良い物を造らうと勤めて居るのでありますが但しこれには其實質よりも、香や廣告や、製造所の評判などが大分加はつて居りまして

責任のある大事な成分は何時不明であると云ふだけであります。

我國の婦人は椿油位のものですが、西洋では樺の油とか、葱汁や山牛蒡の越幾斯など〻云ふ風に隨分奇怪なものを用うる樣子であります、而してそれが髮を洗ふだけの效があるのか、髮の爲になると云ふのか一向無分別に使はれて居ります。又バイ、ラムと云ふものが頗る評判になつて居りますが、普通賣つて居るものは、月桂樹水に硼酸や鹿角鹽などを混じたアルカリー液でありまして、頭につければ泡が立ちますから、洗髮用にはなりませうが、髮の爲には何等の效もなく、頗る不適當なものであります。眞正のバイ、ラムは、一罎五マルクもする高價なもので、これとは丸で異つて居ります。但し洗髮料には適當なものでありません。尤も、爽快な毛髮液を好きな人には、こんな物を用ひなさるなと云ふ程のこともないのであります。毛髮藥、洗髮液と云ふものを批評すると、大概こんなことになつて了ひます。

頭を洗ひますのは、女は何時も、晩に洗つた方がよろしい、而して髮をさばいてフランネルの巾片でもつて石鹼の泡を頭の地に十分塗れるやうに他の人に手傳つて貰ふたらよろしい、この石鹼を洗ひ落すには十分注意してよく洗ひ落ちるやうにせねばなりません。而してその髮の毛は濕めた巾片ですつかり水氣を去つて、而して寢る時には矢張り濕いタオル或はネルの巾片で包むか又はゆつたりした網で包むで置いたらよろしい、若し早く乾かさうと致しますなら團扇又は煽風器を用ひる。

近頃西洋の女は三週間位毎に理髮師に髮を洗はせるそうでありますが、これは餘り感服は出來ません、何故と申すに第一床屋では根本的に淸潔にする事はむづかしい、第二には女は餘り床屋など行ない方がよろしい、實際當り前の人は自分の家でもつて髮を十分に洗つて其上に全身浴を致します事は申迄もない事であります。

髪結を家によびました時には、先づ少なくとも髪結の手をよく洗はした後にかゝらせた方がよろしい。

西洋の婦人は概して頭を不潔にして置く、而して頭を洗ふのは害があると思つて居るのは餘程奇妙であります、東洋の文明婦人に於きましては斯様な事はありませんが、然し度々髪を洗ふ婦人は、又油を塗る事が必要であります。けれども多數の人に於きましては油を塗る必要のない程頭の地から脂肪が分泌されます、髪の脂が多いか少くないかはどなたも自分で分る事であります、それで此髪に油を塗る事は決して害はありませぬが、毛髪の乾燥は害があります。

英國の婦人は歐羅巴の婦人の中で最も毛髪を清潔にするさうでありますが、裂毛症と云ふ髪の病が澤山ありまして、これは髪の毛が裂けて折れる病氣であります、其原因は餘り髪を洗ふの結果として、髪の毛が乾き過ぎるからであらうと思ひます、これは十分油を塗れば防ぐ事が出來ます。

毛髪油は只髪の毛の端だけに塗るのでありますからこれは化粧法として特別に申上る程の事もありませぬから次に化粧法の書物や化粧品店にとつて大事な部分たる毛髪油の處方だけを一寸申添へて置く事に致します。

髪の毛に油を付けるには只リチ子油だけで十分であります、其の製り方を申しますならば、罎の四分の三だけアルコールを入れてそれにリチ子油を加へてよく罎を振つて其のリチ子油がアルコールによく溶けるやうにするのであります。

頭のフケが多くて困る人には一プロセントのレゾルチン、二プロセントのサリチール酸と、三プロセントのリチ子油を含んで居るアルコール溶液が頗る效能があります、これは餘り髪に油はベタ付きません、若し香を付け様と思へば何んでもよろしいのでありますが、極僅かにペルウバルサムを加へてもよろしいので、卽ち凡そ二百グラムの酒精に五グラム程加へます、これは同時に毛生薬の效もあると云

ふ事であります、而してこれに其の倍程のケルン水を加へますると誠に良いものになります、そしてこれを用ひます時は、少量を試驗管にわけて、それに霧吹をつけて、これでもつて髮に吹きかけるのであります、斯様に致しますれば、二百グラム溶液は毎日用ひましても一ケ月程も用ひる事ができます。然し霧吹がありませんでしたら穴のあいたコルクを試驗管に箝めてこれから滴らして用ひてもよいのでありますが、但しこれは餘り經濟的の方法ではありません、且つ普通の油を付けると同じことで只髮の端にしか付きません、若し前の霧吹を用ひますならば髮の毛全體に細く油が行き渡ります。

この油を塗るのは毎日一回でよろしい、これでもつて一切の毛髮液を代用する事が出來ると申しても過言ではなからうと思ひます。

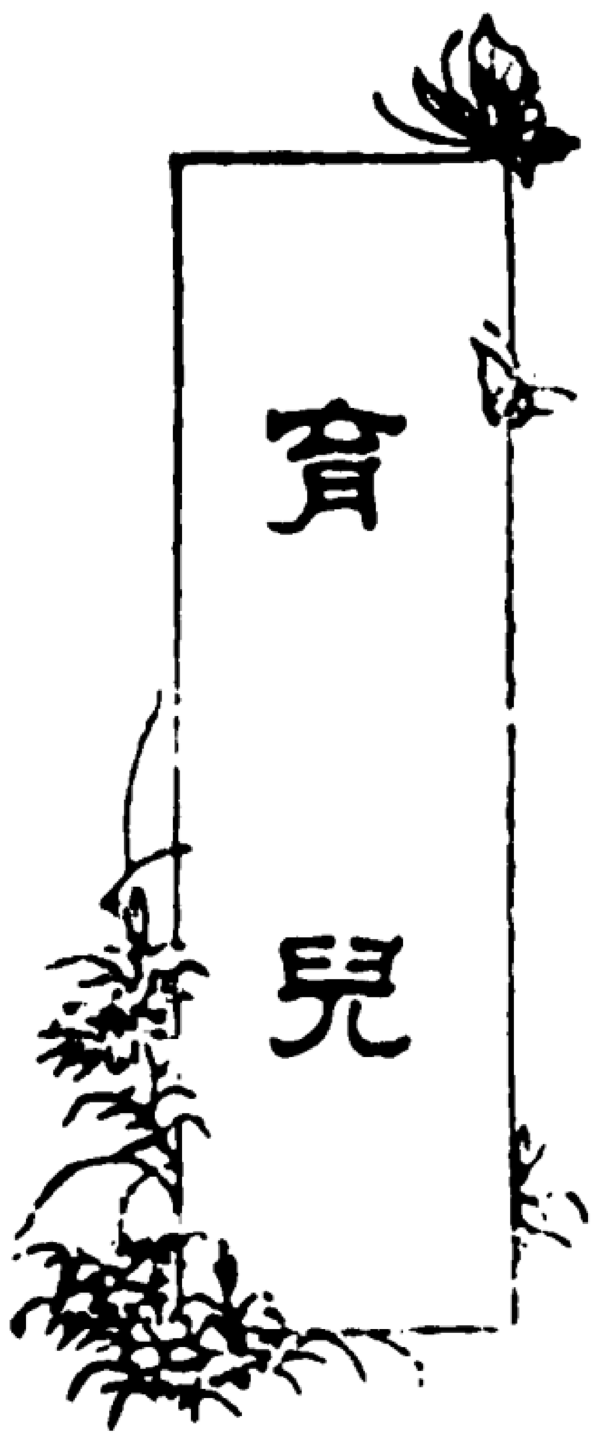
これは我邦の婦人には必要もない事でありませうが西洋の婦人になりますと燒小手を當て髮の毛を縮らすと云ふ事があります、これは毛髮の衞生上決してよい事とは申されませんが、金髮は縮らした方が化粧の上に於て好いのと見えます、且つ濡れて居らず燒小手が餘り熱くなければさほど害にも成らぬのでありますから別に小言を云ふにも當るまいと思ひます、其燒小手の程度はこれを紙にあてゝ紙が黄ろくならず頬にあてゝ丁度心持ちのよい位の温かさで、これに髮の毛を卷いて見てもベツタリしない程ならば害はないのであります。

これに反して緑の黒髮はちゞれてはならぬのでありまするから、若しちゞれて居る場合にはこれを直すことに務めなければなりません、所がこのちゞれ毛と申しますものは髮の生えかたから捻れて居るのでありますから、一寸直す事はむづかしいのであります、然し髮を結ひます時にこの癖を矯正する方法を申しますれば西洋人が眞直な毛をわざ〳〵ちゞらす爲に用ひる處方を執つて、反對にちゞれ毛を眞直にする爲に使ふのであります、それはどうするのかと云ひますと、前にも申しました通り西洋人は燒小手

で髮をちゞらしますが、燒小手を當ずに毎朝髮に癖をつけますのに、粘りの有る溶液を用ひます、それをバンドリン或はブリヤンチンと申して居りますがバンドリンと申しますのはトラガント二・〇ケルン水が六・〇薔薇水を加へて全量二百グラム、又はデキストリン一五・〇アルコール二〇・〇糁糖二五・〇ケルン水一五・〇一プロのサリチール水を加へて全量二〇〇・〇グラムと云ふやうなものでありまして、ブリヤンチンと云ふのはリチ子油一〇・〇酒精九〇・〇或は安息香酸丁幾グリセリン五・〇酒精一〇〇・〇と云ふやうなものであります。

髮の癖を直しますには、熱い湯を布に浸しましてこれを絞りそれで五分間程髮を蒸しまして、それからその縮れて居る處に右の藥を塗りまして、少し引締めて髮を結ふのであります。それからもう一つ注意致しますことは髮を結ひます時に何時でも同じところをわけて結ばぬやうに、少々つゝ場所を代へませぬと其處が禿げたり致します、婦人の中ずりの周圍などの禿は其の證據であります。

（以下次號）



小兒の通じ

小兒が生れると、母親はその小兒が便秘の癖を持つてゐて、灌腸をしないと、便を致しませんといつて診斷を乞ふことが度々あります、しかしその小兒を診察して見るのに、何も便秘を起すやうな病變を見ることの出來ないといふことは、普通のことであつて、母親の訴へる便秘といふのは本當の便秘ではなくて、小兒に便をさせる方法が惡いために、便通がないのであるといふことを知ることがあります、こんなことは大變多いことでありますから、一應世の母さいわれる方々は、便をさせる方法について、御話をして置く必要があると考へましたから、この雜

誌でその大要を述べることに致しました。右のやうな診察を乞はれるのは、皆上流社會のことで中流以下の小兒には決してこんなことがないといふことは一の不思議であります、併し中流以下の小兒の取扱い方をよく見ると、この不思議は直に肯點のゆくことであります。

腸といふもの程、良いにつけ惡いにつけあらゆる習慣に馴れ染めやすいものは外にありませんから、規則正しく便通をさせることに氣を付けてゐますと、良い習慣は直に付くもので、それに反對で少しでも不注意にして置くと、便通が大變不規則になつて了います。野蠻人などは、このことを經驗上から割り出して、大變良く心得てゐるものであります、そして色々種類の違つた野蠻人を調べて見ますと、小兒の便通を規則正しくしやうとする考や方法は、皆同じであります、時として少し位の違はありますけれども、その原理は皆同一であるのであります。

母親は毎朝小兒に大小便をさせるのですが、その方法は普通行はれてゐるやうに、兩手で小兒の兩方の大腿を持つて、口で『シユー』といふ音をさせるのであります、その方法は自然に小兒の腹壓を高めることが出來るのでありますから、便通は必ず出るものであります、よくあることですが、小兒に大小便をさせるときに、ワン／＼が來るから早くせよとか、早くしないとニヤー／＼がくるとかいつて、小兒を嚇すことは、大變惡いことで小兒は怖はがつて、尚ほ／＼便をしないやうになります、こういふ風にして毎朝怠らずに習慣を付けて置きますと、その結果は甚だ立派でありまして、三ケ月から四ケ月位の小兒でも、決して襁褓を汚すといふことはありませんで、大便も小便もよく出ますから、二ケ月位の小兒でも襁褓を汚すやうなことは全くありません、中流以下の家庭ではこのことはよく行はれてゐますけれども、上流の家庭になりますと、四歳になつてもまだ、襁褓の上ばかりに大小便をするといふやうなことは普通であります。

また小兒の腹部を按摩したり、全身の筋肉を按摩するといふことは、便通をよくするといふばかりでなく、小兒の發育を助ける效能があります、その方法は小兒の腹部に母の手掌をあてゝ、指の尖で横腹の所を押して置いて、ほかの手で臀部を押へて、小兒の身體を斜にして腹部の方を下にするのであります、こうするといふと小兒の項、頸、背等の筋肉は十分に作用くことが出來ますから、小兒は大變身體が自由になるので、大變悦びます。

低能兒

世の中には、氣狂とか馬鹿とかいふ惡名の下に、特に虐遇されて居る不幸の病人が澤山あります。これは精神若しくは身體に、何ぞ故障があつたり、缺けたりして居る所のある病人でありますから、これを普通の人と同じ竝に見て、氣狂だの馬鹿だのと云ふて虐めるのは、誠に間違つたことで、これは病人又は不具者として相當の取扱をしてやらなければならぬのであります。併し斯樣な病人や不具者が出來ましては、實に一家の不幸一國の災難でありまして只に本人の不運のみならず、その親たる人は實に氣の毒な次第であります。所で今日の場合これがなか〳〵尠くない、七八百人の中に一人はあるやうであります。獨逸には少くも十五萬はあらうと云ふ話である、又瑞西での調に依りますと七歳から十四歳までの年齡のもので、精神の足りないものは、同年齡のものゝ一五・三%ほどに當つて居ると申すことでありますから、隨分多いものであります、我國に於ても餘り大差はなからうと思ひます。

精神の足りない子供と申しましても、この中には種々のものがありまして、生來のものもあれば、發育の途中で何か故障が起つて、通常の小兒のやうに發達しないのもあり、又一時身體の病氣の爲に馬鹿の樣になるのもあり、又一生同じ程度に智慧の足りないものもありまして、その間には又種々の程度があ

つて、色々の名稱の下に區別されて居ります。而してかういふものは、大概身體も普通の人に異つた所があるものでありまして、身體が年竝はづれて大きいとか、又極端に矮小て所謂侏儒と云はるゝやうなものであるとか、頭の形も曲つて居るのがあり、著しい木槌頭であるとか又は巾着頭であるとか、さては烏帽子頭であるとか、餘程異つて居る、其他口では三口で口の中迄も割れて居るとか、出齒で、亂杭齒であるとか、耳は動物の耳のやうに立て居たり、相撲の耳のやうに潰れて居たり、大黑樣の耳のやうに大きかつたり、反對に殆ど申譯ばかりに附いて居たりする、眼も球が小さくつて奥の方に引込んで居たり、瞳孔が不正で幾つもあつたり、斜視があつたり、近視遠視又は亂視などがある。又手足の釣合も尋常でない、指も六指であつたり、二本が一本になつたりして居る、その他生殖器などにも色々の變化があることが多いのであります。尚ほかういふものは、色々の病氣を持つて居るのが多い、例へば遺傳黴毒、神經病、心臟病、肺病、眼病、その他耳鼻咽喉の病又は骨の病氣等であります。

右のやうな譯でありますから、その不具に相當して精神の發育も妨げられ、その病氣に相應して精神の働に故障が起り、遂に一人前の人としては足りないものに成るのであります。

抑も此の如きものゝ生まれる大原因と申しますと、父母の精神異常、飲酒、黴毒、結核、妊娠分娩中の障碍、血族結婚等が主なるもので、生れてから後の原因としては、重性の腦病、神經病、頭部の打撲外傷、傳染病、不良の生活法等であります。

此等諸種の原因に由て所謂、氣狂、馬鹿などゝ云はるゝ憐れむべきものが出來て來るのであります、私は今此等のものを總括して低能兒と申すのでありますが、これに白痴、痴愚、魯鈍などゝ云ふ種類を分け、尚ほ精神病學上より種々の分方を致します、けれども要するに程度の差であります。何れにしてもこれは一家の厄介物たるのみならず、世の中に出

しますれば、如何なる事を仕出すか解かりません、隨分思切つた犯罪をすることが度々あります。極めて著しいものであれば子供の中にも分かりますけれども、初の間はなか〳〵解らぬ事が多いのであります。

幼兒でも、その頭が非常に小さいとか、馬鹿に大きいとか、手足に不具な所があるとか總て身體の構造に著しい變化があれば、その病的のものであると云ふことが分かりますし、外に原因がないのに非常に激しく泣くとか、夜も眠らぬと云ふやうに刺戟性でその泣聲も普通の小兒と異つて居るやうな場合には將來精神の異常あるものとはなるまいかと疑はるゝこともあります。稍々成長しますれば、家族の人を覩別けること、笑ふこと、話をしたり、歩くこと、その他凡ての事が普通の小兒の如くでなく、著しく遲いと云ふやうであれば、兎に角精神の發育が後れて居ると云ふことが明かになります。更に成長致しまして他の兒童と共に遊戲するやうになりますれば一層その精神發育の程度を比較することが出來ますから、その鈍いことや、過敏なことや、變なことが分つて參ります、併し眞の白痴でなければ、その智力の足らないものであることが一寸解りませんので小學校に入つてから漸く分かり、或は卒業近くになつてから初めて、一人前のものには成れぬと云ふことが分かるやうなこともあるのであります。然しながらその身心の發育について、特に注意しまするならば、白痴は勿論、痴愚、魯鈍と云ふやうなものも大抵判斷はつくものであります。

低能兒と云ふのは、まづ右に述べましたやうなもので有りますが、これを豫防致しますには、第一に父母其ものゝ注意でありまして、第二は小兒生後の注意でありまして、これは前に述べました原因に鑑みて、其の惡い事を防ぎ且つ除く樣にしなければなりません。

尙かやうな低能兒を普通の兒童と一緒に教育すると云ふ事は、其兒童自身にとりましても、良くありま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せんし、又他の兒童の爲にも惡影響を及ぼしますから、これはどうしても特別な取扱をし、特別な教育を施す事が必要であります。乃ち補助學校、白痴院と云ふやうなものが是非必要なのであります。西洋の文明國には、既に立派な設備もあり、かなり研究も届いて居りますが、此の東洋の文明國には、悲しいかな殆ど未だ何等の設備もないのであります。所謂馬鹿の多いことは決して西洋に劣るまいと思ひますが、これに關する研究や設備に至つては、慥に劣て居る、否實は何事も爲されて居らぬのであります。遺憾千萬な譯で、これはどうしても國民一般の教育思想及び衞生思想が高まつて來て、同情あり、慈悲心に富んで居る人の獻身的活動に俟たなければならぬのでありますが、何れの國に於ても、斯樣な情ある事業の起りには、常に婦人が與つて居るのであります。我國に於きましても必ず賢明にして慈愛に富んだ幾多の婦人が、直接間接に、この大事業を起す有力なる恩人となるであらうと信じますから、餘り面白くはなくとも、時々斯樣なことを御耳に入れるのも、あながち無用のことではなからうと存じます。

子寶の内に麻あり蓬あり。

人にのみ子を思はせて夕雲雀
うはの空にていかて鳴らむ　（草徑集）

小兒の蟲

小兒が何ぞ不明の病氣に罹りますと、お婆樣は直ぐ診斷を下して、それは蟲の性であると仰せられます。例へば慢性の鼻加答兒があれば、それは蟲の性である、腹痛があれば無論蟲の性である、少し不機嫌であれば、それは蟲の性である、夜啼をすれば、言ふ迄もなく蟲の性である、況や痙攣などを起すに至つては疑もなく蟲の性である、而してその症狀は凡て疳と云ふのですが、この蟲系統の醫學は、もはや今日では通用しないのであります。且つ漢方醫の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

間にムシの症と申されて居つたものも、お婆様の所謂蟲の性と云ふのとは、ちと意味が違つて居つたやうであります。それは兎も角と致しまして、蟲即ち寄生蟲に因て色々の症状を呈することは實際あるのであります。それでお婆様の御診斷も全く中ることが無いとは申されません。

偖てその蟲共の種類は、如何なものかと申しますと孰れも鈴蟲、松蟲、轡蟲など云ふ優美なものではなくつて、蛔蟲、絛蟲、十二指腸蟲などゝ云ふ頗る可愛らしからぬもの共で御座ります。その他種々居りますが、特に屢々小兒の腸内に宿つて惡戯を致しますのは、蛔蟲と蟯蟲と云ふ奴であります。

蛔蟲と云ふのは何人も御承知の彼の蚯蚓の様な饂飩に似た蟲でありますが、これは大抵その卵を水や野菜と共に飲込む爲に生ずるのでありまして、大人では格別の症狀を起すこともありませんけれども、小兒ですとお臍の周が痛いとか、瞳孔が大きくなつたり、左右不同になつたり、鼻の孔が痒いとか、涎が出るとか、睡眠不安であるとか、無暗に變な物を好いて喰べるとか、又は嘔氣を催し、頭痛を訴へ、或は癲癇のやうな症狀を起すことがあります。これらの神經症狀は全く蟲の性と申しても良いのであります。その他頑固の下痢を起したり致します。これは普通の事でありますが、稀には腸を塞いだり、孔を穿けたり、胃や食道から鼻や口に出たり、時としては喉頭の内までも這入込んで、その爲にその人が遂に死亡したといふやうな例もあり、その他頗る危險な事も稀にはあるのであります。

蛔蟲は何處から來るかと申しますと、大抵水或は野菜と共にその卵を嚥下で、これが腸の中で發育するのであります、而して此の腸の中で生んだ卵は大便と一緒に外に出されて、その熟したものが復び水や野菜と共に人の身體の中に取入れられて蟲となつて宿るのであります。それですからこれを免れやうとするには凡て生の野菜を喰べないか、或は能く洗つて、特にその根の處は十分に注意して洗はなければ

喰べられません。併し我國のやうに生の糞便を直接に肥料とするやうな處では、なか〳〵此等の寄生蟲の卵を呑まぬといふことは六ケしいのであります。その證據には餘り自慢でもありませんが、苟も日本人として一匹や二匹の蛔蟲を腹の内に有つて居ない人はないと申しても過言でない程多いのであります。

斯樣な譯でありますから、誰でも此の蟲を知つて居ります。而してその驅蟲劑も蟲下と稱して名高いもので、近來はその特效藥たるサントニンの名を知らぬものはない程であります。それで小兒に何ぞ異常があると、前に述べた所謂蟲の性といふ譯で早速賣藥のサントニンを與へるのであります、これは實際蛔蟲の爲であれば效能があるに違ありませんが、サントニンは劇藥であるといふことを忘れてはなりません、小兒に取つては僅かに過まれば、甚だ危險なる中毒症狀を起します。斯樣なものを妄に用うるは大に愼まなければならんことで、これを用うるのは、蟲が自ら出たのを見屆けるか、さもなくば顯微鏡を以て大便を檢査して、その卵を發見した上のことでなければなりません。

次には蟯蟲と云ふ蟲でありますが、これは一・五ミリメートルから一〇ミリメートル程の白い絲のやうな蟲でありまして、蛔蟲は腸の上の方に棲で居りますけれども、これはずつと下の直腸の邊に棲んで居りまして、直腸の加答兒を起し、又肛門が痒いのと灼いのと痛とで小兒が苦しめられます。而して蒲團の中で溫くなりますと肛門から外に這ひ出すものであります。

この肛門から這出すのを防ぎますには、肛門の周圍に灰白水銀軟膏を塗りまして、冷水或はこれに酢を混せて灌腸をしたり、球葱を喰べさせたり致しますが、內服には矢張サントニンを用ひて效がありますれども、醫師の治療を乞ふべきものであります。

この他に貧血、衰弱を來し、消化器や神經の症狀を起す所のものに、十二指腸蟲、條蟲などゝ云ふ一層

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

性質の悪い寄生蟲がありますが、何れも醫師に就いて治療を受けなければならぬものでありますから、別に茲に詳説致しませんが、只凡ての寄生蟲に對して豫防致しますのには、先づ野菜でも魚肉でも、凡て生物を喰べぬこと、生水を飲まぬこと、身體特に手を淸潔に保つことの三箇條が必要であることを申上げて置きます。これは單に小兒のみならず、大人に於ても同一であります。

家庭衛生

病原としての不潔物

私共の周圍には、不潔なものが澤山にある。身體に害をする黴菌も、到る所に住んで居ます。コレラや、チーフスや、ペストや、ヂフテリーが、各其黴菌のために起ることは、誰も知る處であります。其他病氣の原因になる黴菌が幾種類あるかわかりませぬ。

恐ろしき傳染病に罹るものゝうちには、不注意のために此慘害にとりつかれるものも少くはない。

何れにしても、我々の周圍には、害になる黴菌が澤山に居るのであるから、出來るだけ、此有害な黴菌を遠ざけねばなりませぬ、我々が健康な身體を以て生活して行くのは、一つの戰爭のやうなもので、始終此黴菌とも戰はねばならぬ。

健康にして生活することの出來るのは、全く戰ひ勝つて居る證據であります。

黴菌は不潔を好む、臭い所には蠅が集まるのと一般穢はしい所には、黴菌が好んで參ります。

どんなに強い人でも、有毒な黴菌を喰べるやうなことは無謀の業である。害のあるものは眞平御免と遠ざけるに限る、處が不注意やら、智識の無い所からして、識らず識らずの間に、黴菌と親密になつてそのために、病氣に罹つて惱むことは、決して少いと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は申されませぬ。

これと云ふのも、全く黴菌と云ふものが、肉眼で見える程の大さでないからで、どんな人でも、石や砂を喰べるものはありませぬ。食物と一緒に黴菌まで喰べて、恐ろしい病氣に罹つては、どんな海山の御馳走でも、御馳走にはなりませぬ。

食物の中には、初めて造られた所から、吾々の口に入るまでの間に、次から次と、商人の手を經て來るものがある。併し幸なことには、それほど澤山の黴菌も居らず、居ても僅な場合が多い。

我等が用ひる榮養品のうちで、最もひろく用ひらるるものは、牛乳でありませう。牛乳は、これを牛から絞りとる場合、絞りとつてから、種々の器物に移し入れる時に、諸多の不潔物が混入します。この不潔物は、殊に小兒の身體に這入るので、健康上著しき害を喚び起こすことは、確です。

小兒に起る所の胃加答兒、腸加答兒、下痢等は、多くの場合に於て、全く不潔の牛乳が原因となつて居る、それゆへ、毎回醫者の診察を煩はさずとも、只牛乳を換へただけで、全快してしまうことが多くある。

斯かる有害成分は、牛乳を一度煮るときは、悉く殺し得るものだと云ふことは、多くの人が考へる所である、成る程有害物はこれによつて無くなつてしまひます。黴菌は、煮られたために、往生してしまひます、極めて好都合ではあるが、一つ困つたことには、榮養の成分が變じて參り、小兒の身體に這入つて後、消化されるのが、生の牛乳に比して困難となることです。それですから、牛乳を長い間煮つめると云ふことは、無意義の業になつてしまひます。

小兒の時によく罹る疾病でミヨルレル、バルロウ氏病と申すのがありますが、この疾病の主な容態は、出血である。殊に骨膜下出血が多いが、煮沸牛乳にて哺育されて居る小兒に於て見るので、この場合には、多くは全癒するのは少い。

斯うなつて參ると、初め安心だと思つた煮沸も、却つて害を招く基となることになる。

茲に於てか、牛小屋の中で乳を榨りとる時に、出來る丈けの設備として、清潔な乳汁を得るのが、一番理想に近い方法となつて參ります。今日では、既に大都市に於て、この方法を用ひて居る國が多い、就中瑞西では、牛小屋の換氣を佳くし、極めて清潔に保ち、乳汁を榨り取るものは、非常に注意して、出來得る限り清潔に處理することに致しました。病氣に罹つた牛は、素より、牛小屋には置きませぬ。さていよ〳〵乳を榨り出した後は、直ちに清潔な器に容れて、速に一定の場所に送つてしまふ、かくして新鮮な牛乳を需要に供することは、極めて大切のことであります。これは乳汁中の細菌は、迅速に發育增殖するからです。若し斯くして、新鮮な乳汁を天下汎ねく用ゆるに至らば、恐らく小兒の死亡數は尚ほ大に減ずることが出來るであらう。

乳汁が傳染性疾患の媒介物となる場合には、大人に於ても牛乳の害を被らねばならぬ。神經熱の流行或はチーフス流行時に於て、斯かる例を見ることが出來る。卽ち同じ乳汁を用ひた多くの家族が、同時に神經熱に罹つて惱まされ、後で檢査をして見ると、榨乳夫の妻が神經熱に罹つて居たと云ふことが分つた。

此榨乳夫は、自ら妻の看護をしながら、牛の清潔などに注意せずして、乳を榨つたからであつた。チーフス菌の樣なものも、牛乳に交せ込んで、外へ運ばれて、そこでチーフスを起すことがある。

以上は、牛乳の不潔なる場合に於ける害を申上げたのでありますが、何も牛乳だけに限つたことは無い、水のなかに不潔なもの乃至病毒菌が、混入して居ると、それ相應の障碍が起るのは、當然のことであります。

山から涌き出る水、炭酸水の如きものは、厚い地層で濾過せられて居るから、清潔である。

水の清潔不清潔を檢するには、理學的、化學的、顯

微鏡的、細菌的等に區別して行ふのであるが、これ等の精密なことは、他日に讓り、然らば清潔な水とは一體どんなのかと云ひますると、色や、濁りなく味は清涼にして、臭氣なく、化學上、細菌學上有毒物を含有せず、且惡臭等なきものでなければならぬ。

コレラの如きも、不潔の水より傳搬せらるゝことあり、ハンブルヒでは曾て、コレラの大流行があつたが、これは、エルベ河水の濾過が不十分のためであつた、アルトナは、極近傍であつたけれども、その水極めて良好なりしため、全くコレラの災害を免れたと云ふことであります。

牡蠣が流水の中に置かれし場合、これを食するに方り、病菌を感受することあり。綠礬によりて不潔にされた葡萄のために、人に中毒を起させることがある、これは秋に至りて認められることがある。

其他牛肉、豚肉、一定の魚肉例へば、梭魚の如きものより、條蟲を輸入することあり、この條蟲は、發育時期種々ありて、人に住み、又動物に住む時もあります。

若し生煮の豚肉を食して、其中に條蟲が、含まれて居た場合には、腸の中に這入て、段々と生長する、條蟲の卵が直ちに豚の腸内へ參りたる時は、其卵の内容が豚の腸壁を出て、遂には筋肉の中へ移り行きます。そこで胞のやうなものが出來る。

（以下次號）

衞生雜信（四）

○身體に及ぼす精神の影響が果して此の如しとせば精神が身體の疾病、殊に神經性疾病に對して時に治癒的效力あるは、當然想像し得らるゝところに候はずや。ハッドソン氏は申し候「如何なる科學者と雖も、吾人の體内には一の中心的智識ありて身體各部の作用を統御するものなるを拒まざる可く、又交感神經系なるものが不隨意筋に命じて絶へず體内機關

の運動を保續しつゝあることをも否定せざるべし。唯物論者として最も知名の士と雖も、此中心的智識が、全身を構成せる幾億萬の細胞の機能を調節する統御力なることを疑はざるべし』と。

○スコットランドの名醫ドクトルクラストン氏は、其著『精神の衛生』中に於て左の如く申し候。『榮養障碍を來す或種の病氣は、精神的影響により確實に治癒せることあり。これ全身に供給せらるゝ血液と腦との關係により容易に說明し得らるゝことにて、身體の或る部分に適度の刺戟の加はる際には、腦の血管運動の作用により、或は血液供給の途を絕たれ或は過likの血液の供給を見、爲めに血液供給の不足若くは過度に因する疾病は、容易に治癒せらるべきや必せり。故に血液の循環に或る變化を起すべき想像、期待、信仰、喜悅、希望、恐怖、暗示等の如きは、或る種の疾病を治癒し得るの效力なしと云ふべからず』と。

○英國の或る海軍々醫は『英國外醫評論』紙上に於て左の如き一例を報告いたし候。『一士官あり、多年胃痙攣を患ふ、その都度次硝酸蒼鉛を用ひて著效あり、然れ共用量漸次增加して最早や中毒量を用ふるも寸效なきに至れり、是に於て余は士官に約すらく、若し來週胃痙攣の發作あらば他の一新藥を試むべし、然れ共此新藥は其性頗る峻烈なれば普通用ひらるゝこと稀なりと。患者は快く之を承諾せるを以て、次回の胃痙攣發作の際、患者にきこへよかしに、而かも低聲にて、「これにては少しく量か多からんか」などつぶやきつゝ、七分每に四ゲレンづゝの新藥を散藥として與へしに、第四回にして疼痛全く緩解して毫も苦痛を訴へざるに至れり。その後ち同患者が同症を惱める際、同藥劑を用ふること前後四回なりしが、每回同樣の效果を見たり。而かも此峻烈なる作用を有する新藥と云ふは、船中にて常用するビスケットの細末に外ならざりし云々』と。

○吾人日常の實際醫學に於ても、此の如き例證は決して少からず候。近頃一人の俳優にて鉛毒のため腹

痛甚だしく、モルヒネの注射により漸く苦痛を脱し得る患者あり。余はモルヒネ中毒の危險を恐れ、何とかして該藥注射を廢せんと欲せしが、患者の熱望しきりにして到底實行し難きを曉り、モルヒネの貼紙ある小瓶の中に蒸餾水を容れ、患者の目前に於て該罐の中より蒸餾水を盛り、徐々に之を注射せしに疼痛全く去り、漸次恢復に向ひ候。

○以上諸多の實例は、精神が物質に對して絶大の勢力あるを示すものにて候へ共、さりとて總ての疾病が精神のみにて治癒するものと速斷するは誤謬の甚だしきものに御座候。卽ち精神的療法の範圍は無限廣漠たるものには無之、或種の疾病若くは疾病狀態殊に身體各機關の機能性若くは神經性不調の際に主として其效力を顯はすものに御座候。然れ共何が故に斯かる效力を顯はすや、精神治療の祕義は抑も何れの處にありや、これ大に硏究を要すべき問題に御座候。

○差し當り是等の祕義として見做すべきものに三種ありと被考候。第一は自然的の治癒力、第二は普通の精神狀態が身體の各作用に及ぼすの力、第三は晩近學術の硏究により益々光明を發揮せる精神的暗示に御座候。

○人體に自然的の治癒力あるは何人も異論を挾まざる處に有之、各種の疾病は毫も治療を加へずして之を自然に放任するも、尙ほ十プロセント以上の全治を見るものに有之候、卽ち攝生と安靜とを守りて苟も物の自然に逆はざれば、或種の病氣が漸次輕快若くは全治すべきや疑の存せざるところに御座候。精確に云へば病氣の治癒は悉く自然の治癒力のみによりて、營まるゝものに有之、醫師は單に其病氣の經過をして純良ならしめ、治癒に好都合なる狀態を招來するに務むるものに不過候。たとへば種々の内外科の病氣は醫力及び藥力によつて治するもの殆どこれ無く、只自然的治癒力の巧みなる運用により其治癒の進捗せらるゝものに有之候。

○されば獨逸の學者ゴールドシャイデル氏は數年前

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

發行の某醫學雜誌紙上に於て、『自然的療法』と題して、各種の病氣が自然に治癒するの事實及び學理を敍し、最後に左の如く絶叫いたし居り候へ『讀者諸君よ、余は今や筆を收めて本論の局を結ばんとするに當り、端なくもフォン、ライデン氏の言を回想せざるを得ず、曰く「疾病とは有機體と疾病機轉との間の戰爭にして、醫師とは此戰爭を傍觀し、機を以て之に乘ぜんとする將軍なり」と。夫れ水夫は身を扁舟に橫へて風と水との流去に委し、吾人は一身を擧げて以て自然の治癒力に賴れり』と。

○有名なるビール氏も申し候『古來良醫として賞讃せられたるものは、何れも能く自然の治癒の祕密をば、深く自然の寶庫より學び、その足らざるを補ひ其及ばざるを佐け、其餘れるを制するの意に出でざるものなし』と。醫聖ヒポクラテスも、實に自然の治癒力を認めたるものに有之、その治療の精神は只管『自然に倣はんこと』にありし如く相見へ申し候。されば醫聖は『自然に倣ふて事を爲すは至當なり』“Quo natura vergit, co tendere oportet” と言明いたし居り候。

○ドクトルジョン、フォーブス氏は大膽にも左の如く申し居り候『多くの病氣は醫力によりて治するにあらず、自然によりて治するなり。醫師が濫りに治せんとするは寧ろ病氣に有利にして、患者には有害なること多し。故に醫師は濫りに多量の藥品を用ふるよりも、寧ろ自然に信賴してその治癒力をたのみ治癒の機會を自然に供するを以て主なる方針となすべきなり』と。



質疑

問• 小生この二月頃より便通等には變り無之候得共身體かゆく、搔けば毒蟲に刺されたる如く相成り一時間程經過すれば元の如く全治致すは如何なる

物に候や、原因及療法を御教授被下度候。

水　川

答● 御尋の文面に依つて見まするに、これはウルチカリア即ち蕁麻疹と云ふもの丶様に推察されますそれで此の原因及び療法を申上げて御參考に供します。

蕁麻疹と云ふものは、外から或は身體の內部の刺戟に因て反射的に皮膚に發生する疹でありまして原因は實に種々であります、今左にその主なる原因を擧て見ますれば、

外因　(一)蚊、蚤、毛蟲等の刺戟。(二)蕁麻、漆等の刺戟。(三)石炭酸、鉛糖水等の罨法。(四)寒冷、搔爬。

內因　(一)腸胃加答兒、黄疸、腸の寄生蟲。(二)婦人生殖器病。(三)感情の激動。(四)傳染病の後。

その他人に依ては覆盆子、蝦、蟹、牡蠣等種々の食物に由て本病を發する人あり、藥品にてはキニーネ、アンチピリン等に依つて發する人あり。

此外にも或花の臭を嗅げば、蕁麻疹を起すと云ふやうな特異質は幾らもありまして、一々數へ擧ることは出來ぬ程であります。

療法　以上の原因を除くことが第一であります。搔くのはいけません。外用にも內用にも色々の藥がありますけれども、危險のある藥は申上げられませんから、痒い時に塗布する藥を一つ二つ申上げます。

稀薄の醋、五十倍石炭酸、薄荷水、三十倍サリシール酸酒精(此中何れにても良し)。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



雜報

○洪水後の衞生

我國に於ては、年々多少の水害は免れないが、今回の如き洪水は稀有である、殊に東京の出水の甚しかつたことは、諸新聞の報ずる通りであるが、これが單に水害そのものだけでは治まらぬ、この水が引くと同時に、時候が時候であるから、汚物と共に撒布れたる諸種の黴菌は、時を得顔に繁殖するに違ひない、現在既に赤痢、腸窒扶斯などが發生しかけて居る所であるから、今後の殘暑と共に、如何なる惡疫が大流行を來すか解からぬので、水害後に更に一層の害を被むらぬやうに注意するのが、目下の急務である、依て警視廳よりは、早速左の如き告示が發せられた。

一、牀下は汚物及泥土を除去しなるべく乾砂を撒布し牀板の浸水したる部分は之を取外し清水を以て洗滌したる上乾燥せしむる事

二、柱、敷居、板椽等の浸水したる部分は清水を以て洗滌したる上乾燥せしむる事

三、雨戸、襖、障子等の建具は悉く取外し乾燥せしめ室内は日光の射入及空氣の流通を良くし乾燥せしむる事又場合に依ては焚火、火鉢等の火力を藉るべし

四、衣類、寢具、疊、其他濕氣を帶びたる物品は十分日光に曝し乾燥せしむる事

五、箪笥、長持、戸棚其他の什器は一旦屋外に撤去し屋内の乾燥を待て舊位置に復する事

六、浸水したる便壺は一旦汲み干し圊房に便壺の周邊を丁寧に洗滌する事

七、浸水井戸は數回浚渫すべき事但し井戸水は臭味を去るに至るも當分使用せざるを可とす若し已を得ざる場合は煮沸又は濾過して使用する事

八、邸内の殘留汚水は速に疏通せしめ沈澱したる汚泥を除去する事

九、塵芥其他廢棄物は速に取集め燒却又は指定の場所に移

す事

十、現に傳染病發生の地域に於ては前各號に依る外尙當該吏員の指示に從ひ井戸其他消毒方法を行ふ事

十一、其他施行上に關して總て當該吏員の指示に從ふ事

右の告示にもある通り、一旦水に浸つた家屋は復びこれに住ふは、是非牀下に這入つた泥や塵埃を掃つて、その土を乾すことが必要である、而してその上に、よく乾いた砂を敷かなければならぬ、併しその砂が容易に得られなければ、普通の乾いた土でも良い。これ迄大掃除の時には、常に石灰を撒いたが、石灰は風化して、反て濕氣を引いて惡いと云ふので近頃は石灰を用ひぬことゝなつた。家の中は何處から何處まで風通を良くし、なるべく日光を入れるやうにする、これは只家の內の濕氣を早く去るばかりでない、これで以て黴菌の殖えるのを防ぎ、且つこれを日光で以て殺してしまふ爲である。その上に柱敷居、板椽その他の建具類は能く淸潔な水で洗つて水に浸つた部分は昇汞水か石炭酸のやうな消毒液で洗へば申分がない、尙ほ濕氣の帶びたものは、何でも十分日光にあてゝ乾燥さした上でなければ、家の內に取込まぬ。衣服、夜具の如きは特に善く日光消毒をすることが必要である。便所の周圍は勿論のこと、屋敷內も出來るならば土を新に置きかへ度いものである。次に最も必要なるは井戸渫である、これは浸水したものであれば、一度浚渫へた位では駄目である、二三度も渫へて餘程たゝなければ用ゆることは出來ない、可成水道の水を用ひなければならぬ、併しどうしても已むを得ぬ時には一旦濾過た上に十分煮沸して用ひなければならぬ、これは面倒だなどと云ふ考で、その儘用うるやうなことをすれば、それこそ赤痢、窒扶斯などの傳染病に罹るか少なくとも下痢を起す、何時でも洪水後に傳染病の大流行を來すのは、主としてこの飲料水からであるから、手數や面倒を厭ふて、生命の危險を冒してはならぬ、單に飲料水ばかりでなく食器を洗ふ水も同じことである、兎に角最も衞生上の注意を要するのは臺所で

あるから、十分否十二分に氣を付けなければならぬ、以上は外の方の注意の大體であるが、何程外の方に用心しても、身體そのものが惡かつた日には、容易に病氣に襲はれる、外の方に對しては如何程注意した所で、なか〳〵完全な譯にいくものでない、これは出來得るだけ完全にすることゝして、先づ身體そのものを大丈夫にすることが最も必要である、即ち少々の病氣には負けないだけの覺悟が要る、これには早く水害騷の疲勞を恢復し、消化器を健全にして置かなければならぬ、若し胃腸が健康であれば如何なる病の種が這入つて來ても、大抵これを殺してしまつて、容易に病を起さぬものである、次には精神を活潑にし、快潤にして、勇氣に滿ちて居るやうに勉めなければならぬ、洪水の後だから必ず惡疫が流行するであらう、而してこれに罹るであらう、そうすれば死でしまふと云ふやうに、自分から臆病風に襲はれて、惡いお御鬮を抽いて、精神的に半分病氣を引受けて居るやうでは、危險である、爲すべきだけのことはちやんと爲て置いて、衞生上の注意を怠らず、且つ自分の胃腸は强健であるから、如何に傳染病などが蔓こつても大丈夫であると云ふだけの自信があれば、實際なか〳〵そんな病氣に負けるものではない、併し萬が一それでも病氣になれば、それこそ運とあきらめて、直ちに然るべき醫師の治療を乞ふべきである。

○蠅取紙

蠅が衞生上危險な動物であることは云迄もなきことにて、夏期は是非これが防禦法を講じなければならぬ、それ故に蠅取紙と云ふものが賣出されて居るがこれが亦なか〳〵危險なもので、蠅よりも恐るべき毒藥を用ひてるのがあるそうである、現に神奈川縣衞生試驗所にて分析を行つた蠅取紙は、一枚の中に亞砒酸が〇・〇七五瓦も含んで居たそうである、亞砒酸〇・〇〇五瓦以上は人を殺すに足るのであるから、〇・〇七五瓦もあれば、大の人間十五人も殺す程の毒力がある、蠅を殺そうとして人を殺すやう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なことがあつては大變である、大に注意しなければならぬ。

○育兒會附屬病院

婦人共立育兒會に於ては、既にこれまで二千五百餘名の患者に診療を施したるが、本年は恰も創立二十年に當れるより、これを記念に、更に一大發展を企て、麹町區飯田町四の一七に附屬病院を設けた、而して弘田博士を院長に聘して、醫員も藥劑師も皆婦人を採用して、貧兒の無料診察を始めることゝなつた、事情に依ては定員二十名を越さぬ限り入院も許される、診察時間は、日曜と祭日を除くの外、毎日午後一時より四時迄であると云ふ、これについて先程内務省から金一千圓の下附があつた。

○有害飲食器

見た所の綺麗なと値段の安いので近頃大分賣れて來た淡路燒は、警視廳の衛生檢査所で試驗をして見た所が、大分鉛を含んで居ると云ふことである、鉛は急に中毒を起すものではないが、長い間に慢性中毒を起して來るものである、尤も淡路燒は大抵菓子器皿、鉢などが多いが、盃や茶器などもあるから、斯様なものを久しく用うるのは危險であらうと思ふ、併し悉く澤山の鉛分を含んで居るのでもないそうである。

ナイチンゲール孃逝く

看護てふ、慈悲の業の、祖として、初音ゆかしき、鶯の、なくはしき名を、名に負へる、ナイチンゲール、孃こそは、手弱女ながら、雄々しくも、身をば惜まず、戰場に、敵ともいはず、身方とも、いふ別しらに、太刀折れて、たふれし人は、ことごとくに、救ひ助けめ、いたはりて、慰めましこ、夜も晝も、勵みたりけれ、益荒男も、凡ての人もうつくしみ、情の母と、泣子なす、慕ひもとほり、開けたる、國てふ國の、聯りて、おやし心に、問ひたる、赤き十字の、結目と、なりけるものを、今玆に、九十路てふ、稀らなる、世の長人と、いはれつゝ、みまかりぬると、風の音の、遠音に聞けば、悲しきろかも。

うつくしきをみなこゝろをひとのよに
おしてらしたるさとおとめはや

大日本婦人衛生會記事

○山形支會例會

山形支會は、去月九日午後一時より、女子師範學校内に於て、例會を開き、坂口講師の講話あり、後ち割烹實習をなし、五時頃散會せるが、出席者は二十餘名なりき。

○新潟支會講師

新潟支會にては、久しく獨逸國に留學し、今回歸朝されたる布川興策氏に同支會の講師たらむことを依賴せるに、氏は快く承諾されたる趣にて、會員一同大に悅び居れり。

○本會入會者

○立井榮子紹介
●沖縄縣那覇區泉崎町　通常會員　家村きわ子
●同　通常會員　春田ひろ子
●同　東池ノ上醫院内　通常會員　池ノ上靜子
●同　東大門前通り　通常會員　山下幸子
●同　西一四八　通常會員　渡慶次靜子
●同　若狹町山城病院　通常會員　山城まかゝ子
●同　字泊屋宮祖病院　通常會員　屋宮祖靜子
○石栗こせ子紹介
●牛込區原町三ノ六八　通常會員　岩田たき子

○阿部恒子紹介
●北海道札幌北一、西四　通常會員　馬場つか子
○事務所申込
●鹿兒島市高麗町女子技藝學校　通常會員　滿田ゆひ子
●三重縣津市　通常會員　三重縣立高等女學校

○新潟支會入會者

○竹山れつ子紹介
●　特別會員　布川いち子
○高田せん子紹介
●　通常會員　松田じん子

○宇都宮支會入會者

○堀口とみ子紹介
●　特別會員　米田しげ子
○福井よし子紹介
●　通常會員　林末子

○轉居

●小石川區春日町四九寺尾方へ　堀口きみ子
●府下代々木二〇五へ　松浦鶴子
●臺灣嘉義廳官舍内へ　津田貞子
●麻布本村町一二〇上田方へ　森關子
●本郷區彌生町三、ほノ三十へ　河村孝子
●甲府市百石町三三〇へ　川上きん子
●山口町字野々村字古熊十二へ　勝間田千代子
●越後柏崎大州村大久保八八へ　小川すい子
●麻布區仲ノ町五へ　長谷川たよ子
●麴町區三番町二七、深谷方へ　上原とり子
●小石川區大塚坂下町二八へ　地川なかの子
●本郷區駒込丸山町卅一へ　許斐光子
●府下千駄ヶ谷町八三八へ　奧田綾野子

新案特許一〇三六二號
衞生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを裝置せるにより舊式のもの丶如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

● 丸髷　金十五錢より金七十五錢迄
● 島田髷　金三十錢より金壹圓五十錢迄
● 銀杏髷　金二十錢より金六十錢迄
● 送料　各八錢

● 諸かもじ製造販賣
東京市神田區豊島町十七番地【振替貯金口座一八一八九番】
田中金三郎

● 小賣特約店
京橋南傳馬町 大西白牡丹｜本郷三丁目 兼康｜淺草駒形 百助｜淺草駒形 紅勘｜神田區須田町 三井屋｜日本橋通二丁 柳屋

特約店
神田區橋本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町一丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店
日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
同 橘町四丁目 角島村商店
日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店
外全國到る所の小間物店にあり

タカヂアスターゼ

● **消化不良**に就て熊本醫學専門學校長 **谷口博士**は曰く、澱粉不消化の徴候たる胃の膨大、疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ營養不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べしと、又本邦消化機病學の泰斗 **長與博士**は曰く、予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化をも治するに適當なるを信ずと、信ずべき統計に徴すれば消化不良の七割五分は實に澱粉不消化に起因すされば タカヂアスターゼは胃腸障害に對する最も有力なる藥物なり。タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區南茅場町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本劑の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらる孰れも眞正品なり

● **消化力強**大なるは總てのヂアスターゼ劑中タカヂアスターゼを第一位と爲す近く官報を以て發表せられたる **本田博士**の學位論文に徴するに坊間に販かるゝ多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し**數倍**乃至**十數倍**を用ゆるにあらざれば之と同効を収め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は**眞正品**は他**摸造類似品**たることを區別し得るなり、

タカヂアスターゼの說明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

● 世に幾多の摸造品及類似品あり**高峰博士發見の**タカヂアスターゼを求めんには必ずタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舗にて取次販賣す



● **營養增進**の目的を以て虛弱者貧血者重病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし營養自ら增進し體力迷に恢復するを見る、殊に**肺結核**患者に之を應用すれば其効力著明なりされば大阪高等醫學校長 **佐多博士**は曰く、タカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有効を認めたる所とすと、又在京の **栗本博士**は曰く今や予は實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すと、**柴山博士**も亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧けたることを公示せられたり

● **藥効均等**論は輓近醫學者間に唱道せらるゝ所なり、內務省横濱衛生試驗所長 **西崎藥學士**の研究論文中に曰く、タカヂアスターゼは各購求の時日と場所とを異にするものなれども其糖化の効力は固よりグリカーゼの効力も亦常に一定せりとタカヂアスターゼの効力毎常一定なるは其特長なり、これパークデビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ。タカヂアスターゼの用量は一回〇・一—〇・三錠劑(〇・一—三)なれば一錠—二錠毎食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に言明す

私立大日本婦人衞生會高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす ●第二條　當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く ●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條　當支會に學術其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす ●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條　役員は會員中より公選し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす ●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす ●第十一條　會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし ●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上前納すべし ●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す ●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし ●第十八條特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

事務所高崎市寄居町五十番地

高崎支會

虐待兒救護

何所にでもこれあらば知らせて下さい

報知する人は氏名を要せず電話でも先拂郵便でも宜し虐待事故の所番地と氏名とへわかれば宜し

東京出獄人保護所

神田區元柳原町　原胤昭

電話本二九五六

原胤昭著　博文館發行　原方にても販賣

母と子

全二冊半紙判定價壹圓
郵稅市內四錢地方八錢

△何うしたら子供はよく躾けられるか

本雜誌の前々號に子供の心の衞生と題して寄稿したる如く世の母たり姉たる人の必讀の家庭の讀本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號
メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號
正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號
七拾錢（黑塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料をも御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介

下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其他二分一以下同之●特別廣告一頁拾圓半頁其二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

東京市本郷區駒込追分町三十番地
編輯兼發行者　荘司秋次郎

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今井甚太郎

明治四十三年八月十六日印刷
明治四十三年八月二十日發行
[illegible]
（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍